

2025年に北海道で大発生したオオカマキリについて

堀 繁久・中森 達

Key Words

オオカマキリ (*Tenodera sinensis*)、温暖化 (Global warming)、移入種 (Introduced species)、環境適応 (Environmental adaptation)、野幌森林公園 (Nopporo Forest Park)

1 はじめに

2025年は、北海道のかなり広い範囲でオオカマキリが大発生した年であり、そのニュースは地元新聞紙上を賑わした(北海道新聞 2025年10月10日; 同2025年10月18日)。北海道の子供たちにとって、オオカマキリは普段見ることのできない憧れの昆虫であった。昔から道南の函館周辺には生息すると言われてきたが、ほとんどの人は見たことがなかった。そのオオカマキリが道央圏の広い範囲で、一般市民が普段の生活の中で出会う昆虫の一つになっていた。

北海道のカマキリ類については、これまで分布しないとする図鑑(石原 1990)とオオカマキリ *Tenodera sinensis* Saussure, 1871とウスバカマキリ *Mantis religiosa sinica* Bazyluk, 1960の2種が分布すると記述されている図鑑(日浦 1977)、ウスバカマキリのみ分布するとした図鑑(石原 1965)が混在してきた。

最新の直翅目類の専門図鑑や目録ではオオカマキリとウスバカマキリの2種が北海道に分布するとされているが、後者の分布には近年記録がなく分布に疑問符が付けられている(中峰 2016; 中峰 2021)。ウスバカマキリは分布の再確認が求められていたが、近年になり倶知安町から1例が報告された(山本ほか 2025)。

オオカマキリは、北海道内では渡島半島南部と奥尻島に生息することが知られている(田川 1966; 環境庁 1979; 田口 1980; 久万田 1981; 棟方 1997; 前田 2000; 坂田 2013; 大井 2017)。全国的には、北海道南部から本州・四国・九州、さらに屋久島および種子島まで広く分布し、秋に産卵、卵で越冬、春に孵化して夏から秋に成虫になる年一化の昆虫として知られている(岡田 2008)。

それ以外にも、コカマキリ *Statilia maculata* (Thunberg 1784) (小川 2013; 坂田 2013; 井村 2018)、チョウセンカマキリ *Tenodera angustipennis* Saussure, 1869 (本部 2021; 山本ほか 2025)、ハラ

ビロカマキリ *Hierodula patellifera* (Audinet-Serville, 1839) (柏崎 1999)、ムネアカハラビロカマキリ *Hierodula* sp. (佐藤 2022)などが北海道から偶産種として記録されている。

北海道の道南以外でのカマキリ類の発生例は、花卉や苗木などに産み付けられた卵囊に由来する一時的な発生や(久万田 1990)、ペットショップや夜店で販売、本州から卵囊を取り寄せて飼育した個体の放逐由来とされている(森下・池田 私信)。しかし、これらの多くは幼虫期のみ、あるいは単年の発生で終わっていた(星 1969; 中嶋 1987)。北見市の造園関係の仕事に従事されていた方によれば、栃木県や埼玉県から買い入れた樹木によくオオカマキリの卵囊がついていたとのこと。その卵を飼育しても、多くは成虫にまで育たず、稀に育って産卵しても卵は孵化しなかったとのこと(藤枝私信)。

世代交代が起こったと考えられる複数年にわたる継続発生例としては、2008年以前の数年間の札幌市東区本町および2014年からの数年間の伊達市長和でのオオカマキリ、2022~2024年にかけての小樽市蘭島でのチョウセンカマキリが挙げられる(大井 2017; 山本ほか 2025)。

北海道博物館では、野幌森林公園の生物相解明のため、様々な昆虫の調査を長年継続している(堀ほか 2003)。2002~2023年の22年間には、普及行事「バッタ類の調査と観察」を継続して実施してきたものの、カマキリ類は一度も確認されていなかった(堀ほか 2025)。しかし、2025年8月16日の「トノサマバッタをさがそう♪」では、オオカマキリ成虫2個体が初めて捕獲された(写真14)。

また、野幌森林公園では2024年9月8日に北海道開拓の村でオオカマキリ成虫が捕獲され、これが同地区での初確認である(写真13)。さらに大沢口周辺では2025年7月に幼虫が複数確認され、その後も多数の成虫が確認された。前年に成虫が確認され、翌年の初夏に幼虫が

確認されたことから、前年に産み付けられた卵囊が翌春に孵化し、幼虫が成虫まで成長したと推定される。

これまで偶産的とみなされてきたオオカマキリの発生が、2025年には非常に多くの個体が道央圏の広い地域で確認された。

本研究では、これまでの北海道のオオカマキリの記録を広範囲で収集し、その発生状況を時間経過とともに把握することを最初の目的とした（以下、分布調査）。さらに、その個体数増加の要因を探るため、越冬卵の調査を野幌森林公園周辺で実施し、オオカマキリ産卵植物や産卵高等の状況を調査した（以下、卵囊調査）。分布調査と卵囊調査の結果と各種気象や積雪深等のデータと合わせて、オオカマキリの越冬や定着、繁殖について考察を行った。

2 これまでの文献によるオオカマキリの記録

北海道におけるオオカマキリの記録は古く、『函館市史』（昭和10年刊）には函館付近の動物として「かまきり」が掲載されており、当時の種構成からオオカマキリであると判断されている（函館市 1935；田川 1966）。

環境庁が実施した第2回自然環境保全基礎調査（昆虫類）北海道（環境庁 1979）では、日本昆虫学会の依頼により棟方明陽氏が渡島半島南部および奥尻島の11地点で生息状況を報告している。

道南以外の記録としては、北海道大学昆虫学研究室に残されていた1970年採集の江別市大麻の個体（久万田 1990）、苫小牧市の苫小牧港付近の牧草地で、本州以南から船舶に随伴して入ったと推定される例（神田 1972）がある。

近年は道内の博物館紀要にカマキリ類の報告が増えており、道央圏で2007年以降、小樽市、余市町、石狩市、札幌市東区、蘭越町、むかわ町穂別など広い範囲で標本記録が報告されている（山本ほか 2025）。また、様似町では2023年および2024年に終齢幼虫と成虫が確認されている（榎本ほか 2025）。

3 分布調査

3-1 調査地

オオカマキリの分布情報の調査は、過去から現在までの北海道全域を対象として実施した。

3-2 調査方法

分布記録の調査に際しては、著者の中森が北海道自然史研究会のメーリングリストにカマキリ類の情報共有を呼びかけ、非常に多くの会員から目撃情報が寄せられ

た。また堀が、道南むしの会および北海道昆虫同好会のLINEグループ、FacebookやXなどのSNSを通じた情報提供を呼びかけ、現在北海道で確認されているリアルタイムの情報が寄せられた。過去の文献および新聞記事の収集に加え、2025年10月18日の北海道新聞札幌圏版に掲載された「オオカマキリ目撃100件超道内全域に定着か／生態系への影響懸念」という記事を契機として、道内各地からの目撃情報が北海道博物館に寄せられた。以上のような様々な媒体・主体から情報を収集し、それらを整理して解析に用いた。

3-3 結果

北海道のオオカマキリの確認記録を過去の文献記録と新聞記事、それと各種団体やSNSから収集した結果、総計で428件の情報が得られた（表1）。その内訳は、文献40件、新聞記事11件、北海道自然史研究会（会員283名）メーリングリスト208件、道南虫の会LINEグループ（メンバー36名）88件、北海道昆虫同好会LINEグループ（メンバー134名）5件、Facebook10件、X1件、博物館への電話3件、個人的な情報提供が62件であった。複数の媒体で同一の情報が寄せられた場合は、最初に報告された情報を採用した。

渡島半島南部では古くからオオカマキリが確認されていたことが文献により確認できる一方、それ以北では突発的な個体が新聞記事などで紹介される程度であった。しかし近年は、複数の地域で継続的に相当数の個体が確認されるようになり、状況が明らかに変化しつつあることが読み取れる。

4 卵囊調査

4-1 調査地

卵囊調査は、道立自然公園野幌森林公園およびその周辺地域で実施した（図1）。野幌森林公園は広葉樹主体の針広混交林および針葉樹植林地から構成されるが、「記念塔広場」や「大沢口」周辺など、公園外縁部には芝地や開拓跡地などの草原環境が広く分布する。

4-2 調査方法

野幌森林公園における卵囊調査は、目視探索によって実施した。発見した卵囊は、産卵植物の種類を記録し、地表から卵囊中央部までの高さ、卵囊付着部上部に位置する植物体の直径（複数の茎を巻き込む場合は最も太い茎を計測）を測定した。調査時期は、最初の卵囊が発見された2025年9月24日から、積雪直前の2025年11月7日までの期間とした。

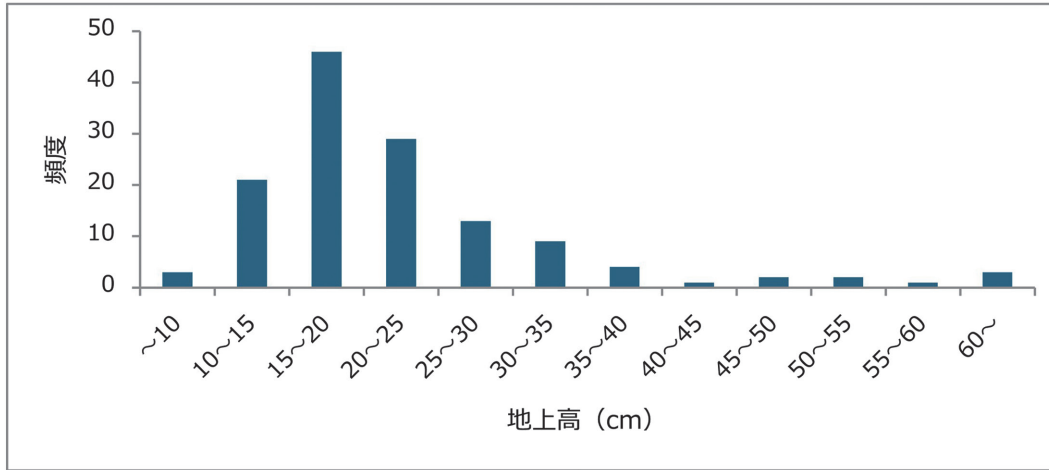


図2 野幌森林公園周辺のオオカマキリ卵嚢高

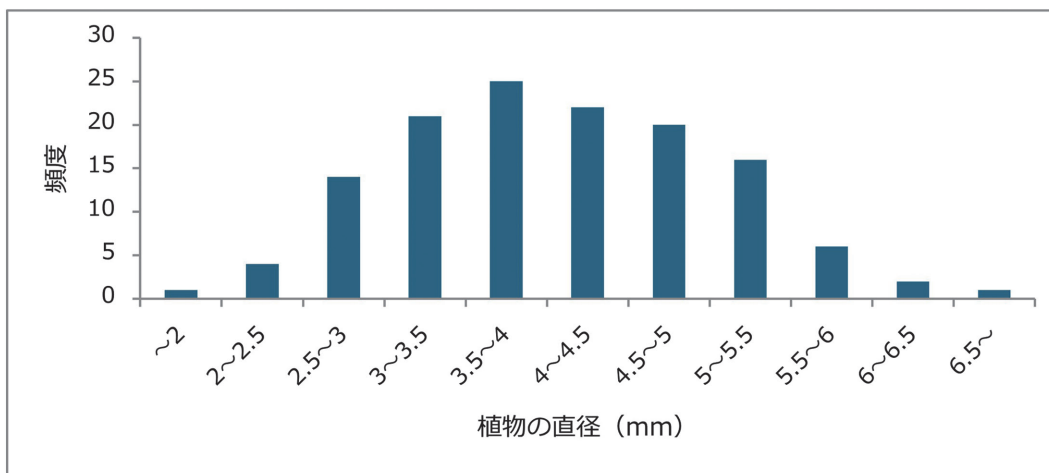


図3 野幌森林公園周辺のオオカマキリ卵嚢付着部の植物直径

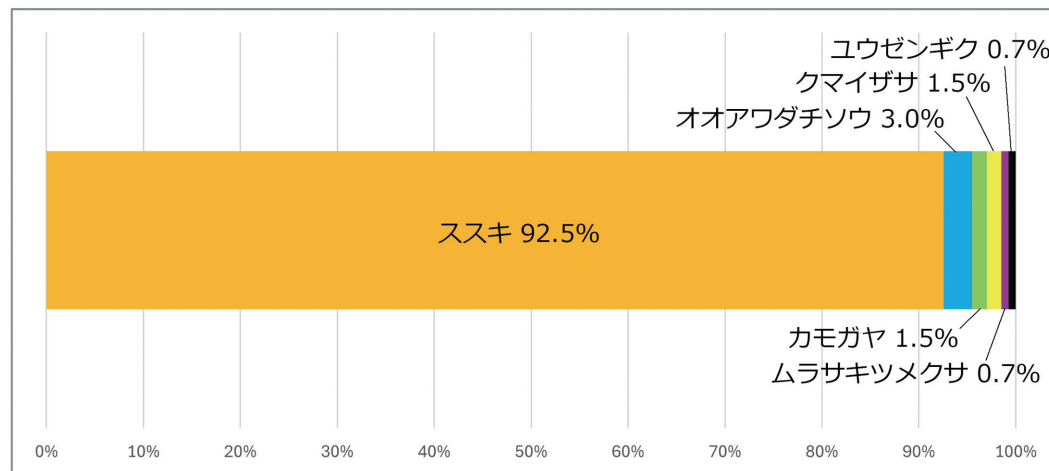


図4 野幌森林公園周辺のオオカマキリ産卵植物

4-3 結果

調査の結果、総計134個の卵嚢を確認し、産卵植物、産卵高、産卵部位の植物径を記録し、ピンクテープに番号を記してマーキングした(図1、表2、写真1-2)。卵嚢中央部の地上高は8~86cm、平均23.1cm、標準偏差11.7cmであった(図2)。卵嚢付着部直上の植物体直径は1.7~6.7mm、平均4.1mm、標準偏差1.0mmであった

(図3)。

産卵植物は、米倉・梶田(2007-)の分類にならうと、ススキ *Miscanthus sinensis* Anderssonが最も多く124例、次いでオオアワダチソウ *Solidago gigantea* Aiton4例、クマイザサ *Sasa senanensis* (Franch. et Sav.) Rehder2例、カモガヤ *Dactylis glomerata* L. 2例、ユウゼンギク *Symphotrichum novi-belgii* (L.)

G.L.Nesom 1例、ムラサキツメクサ *Trifolium pratense* L. 1例であり、全体の92.5%がススキに産卵していた（図4）。

5 考察

5-1 北海道における年代別確認地点の推移

北海道内のオオカマキリ確認地点を6期間に区分したものを年代別に示した（図5）。各年代の記録地点の特徴をみると、以下のような推移が認められる。

〔2000年以前〕

渡島半島南部と奥尻島に記録が集中しており、これらの地域は過去から繁殖する分布地であると考えられる。一方、札幌市・江別市・苫小牧市の記録は、移入個体による一時的な発生記録と考えられる。

1975～1978年にかけて札幌市発寒の園芸店苗畑では複数年にわたり多数のオオカマキリ幼虫が確認されたが、飼育しても成虫まで成長しなかったという聞き取りを得ている（大島 私信）。本州以南から苗木について持ち込まれた卵囊から孵化した幼虫と考えられるが、かなりの個体数が確認されたにもかかわらず、成虫には成長できず、世代交代も起こらなかったと推測される。

〔2001～2010年〕

渡島半島中央部、後志地方、上川地方の黒岳からも記録が得られた。全体として、春先に気温がやや高い海岸近くでの記録が多い。2008年からは札幌市東区で本種の発生が数年続いた記録がある（山本ほか 2025）。しかし、道南以外のエリアの多くの記録はやはり移入個体による一時的な発生であり、一部地域で数年にわたり発生が継続したものの、まだ定着には至っていないと判断される。

〔2011～2020年〕

以前の記録エリアの中で確認地点が増加した。伊達市では数年にわたり発生が続いたことが記録されている（大井 2017）。渡島半島以外のエリアの記録は、この時期も主として移入個体による一時的な発生であり、一部地域で数年の継続発生が見られたものの、広範囲の定着には達していないと考えられる。

〔2021～2023年〕

過去10年に比較して、3年間の短い期間にこれまで記録のあった地点周辺の確認例の追加に加え、胆振、日高地方への進出が目だった。

〔2024年〕

石狩低地帯のこれまで記録の少なかった空白地帯に新たな記録地が増加した。単年でかなりの地点数の増加があり、この頃には道央圏でも定着、繁殖、越冬して個体数を増やし始めたと推定される。また、これまで記録のなかった道東域の帯広市および斜里町での確認例も得られた。

〔2025年〕

この年に記録地が一気に増加し、石狩低地帯周辺では点在していた記録が面的な分布に近い状況へと変化した。留萌市や旭川市でも確認されるなど、北方へ確認エリアを拡大している。各記録自体は、地点と日時のみでオオカマキリの個体数を直接示すものではないが、野幌森林公園では1日で10頭以上を目撃することがあり、安平町では1日で数十頭もの個体が確認されている。北広島市内の小学校への聞き取り結果では、2024年に目撃したのは数名だったのに対して2025年では約半数の生徒が目撃したと回答し、一般市民が生活の中で気がつくレベルの発生であったことを示している（森下 私信）。

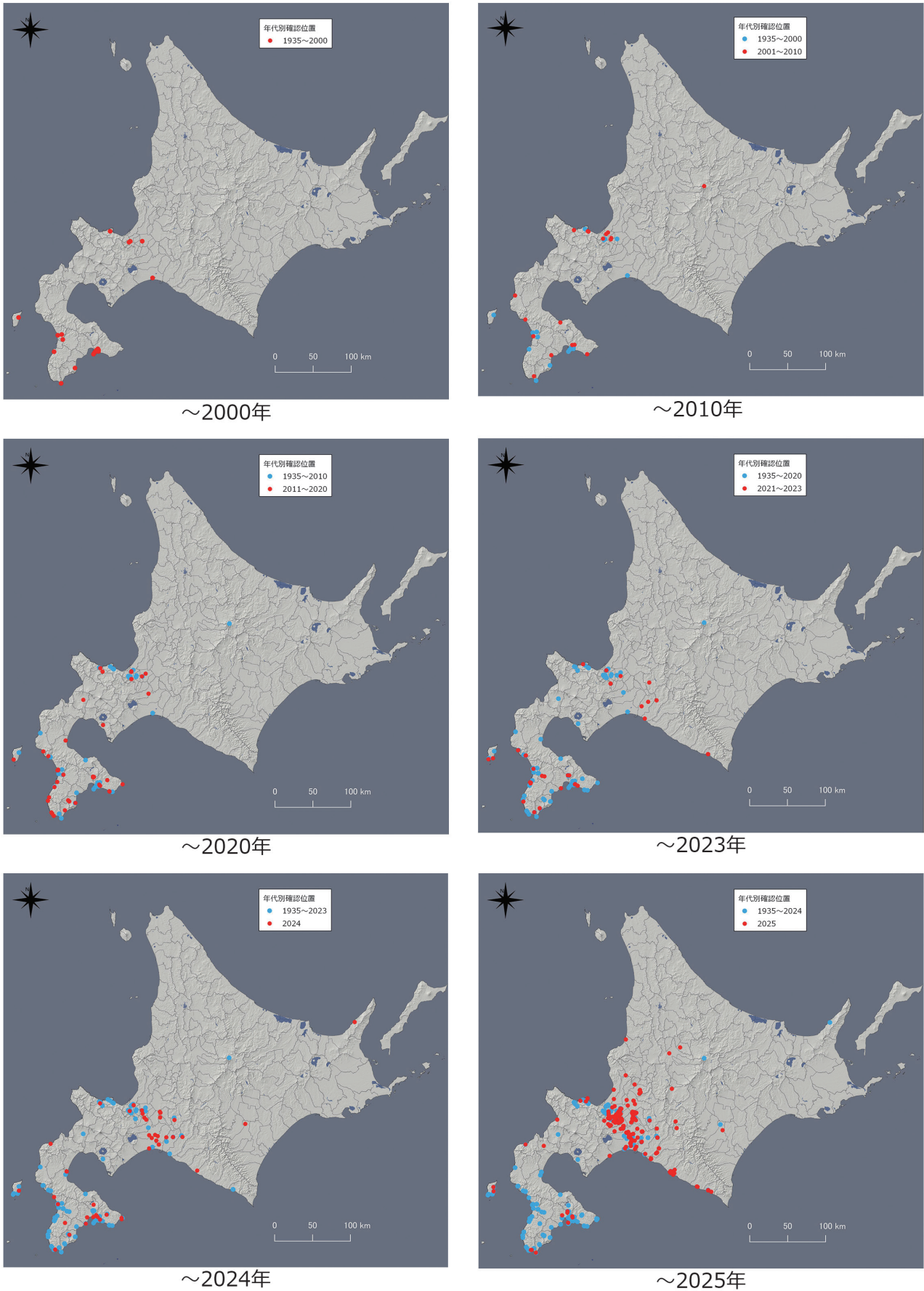
5-2 越冬環境と産卵位置

オオカマキリの北方への定着・拡大にとって重要な要因としては、大きく2つのことが考えられる。一つは厳しい冬を乗り越えられるかどうか（越冬の可否）、もう一つは孵化～繁殖親に至るまでの温量が十分に得られるか（有効積算温量の過不足）である。

オオカマキリの卵囊の越冬に関しては、過冷却点（体液が凍り始める温度）が $-18\sim-20^{\circ}\text{C}$ とされている（安藤 2021）。気象庁ホームページによると、札幌市の年最低気温は1954年以前には -20°C 以下を何度も記録していたものの、アメダスが運用され始めた1979年以降では、札幌市で最も低かった年でも -16.8°C （1985年1月25日）であったことから、野幌森林公園周辺では野外で露出した卵囊でも越冬可能であると考えていた。

しかし、野幌森林公園に近い江別市・北広島市・恵庭市の最低気温データを比較した結果、これらの地域では年最低気温が -20°C 以下になる年が存在し、野幌森林公園は都市化の進んだ札幌中心部よりも気温が下がるエリアであると判断された。アメダスの気温データが得られる恵庭市の値が現地の最低気温に近いと判断し、卵囊が露出した状態で越冬するのが難しい年も存在すると考えられた。

野幌森林公園周辺で実施した卵囊調査では地上高は8～86cm、平均23.1cmであった（図2・表2）。日本全国のオオカマキリ卵囊8,833個の産卵高調査では、産卵位



出典：国土地理院発行の地理院タイル・国土数値情報（湖沼データ・行政区域データ）

図5 北海道のオオカマキリの年代別確認地点

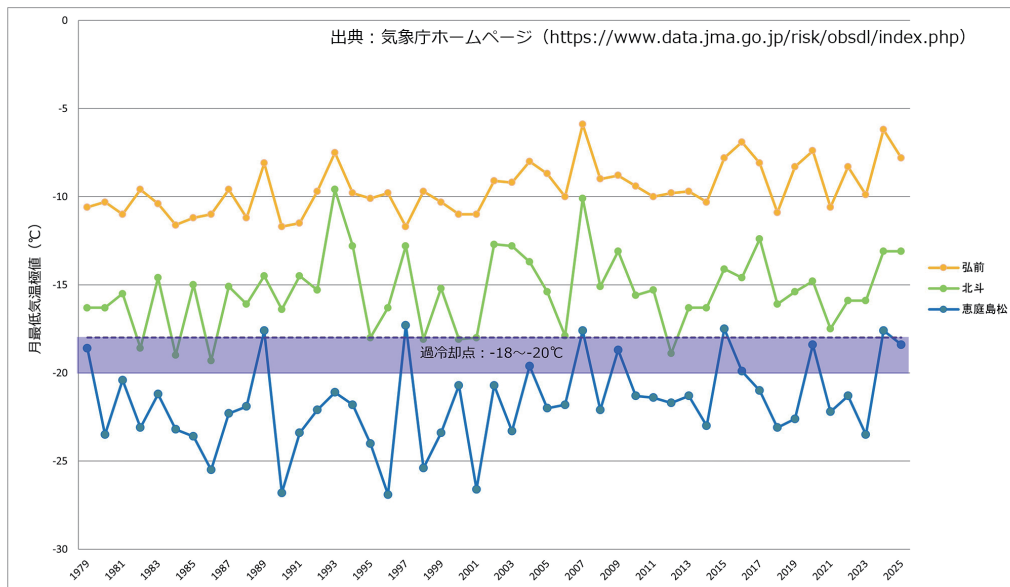


図6 弘前市、北斗市、恵庭市の年最低気温（1979～2025年）

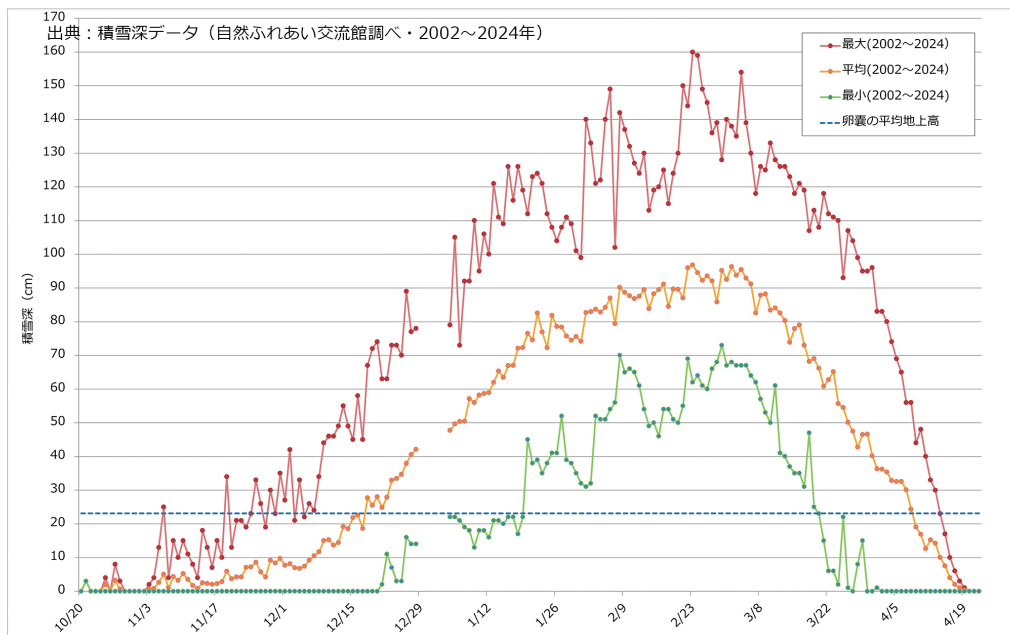


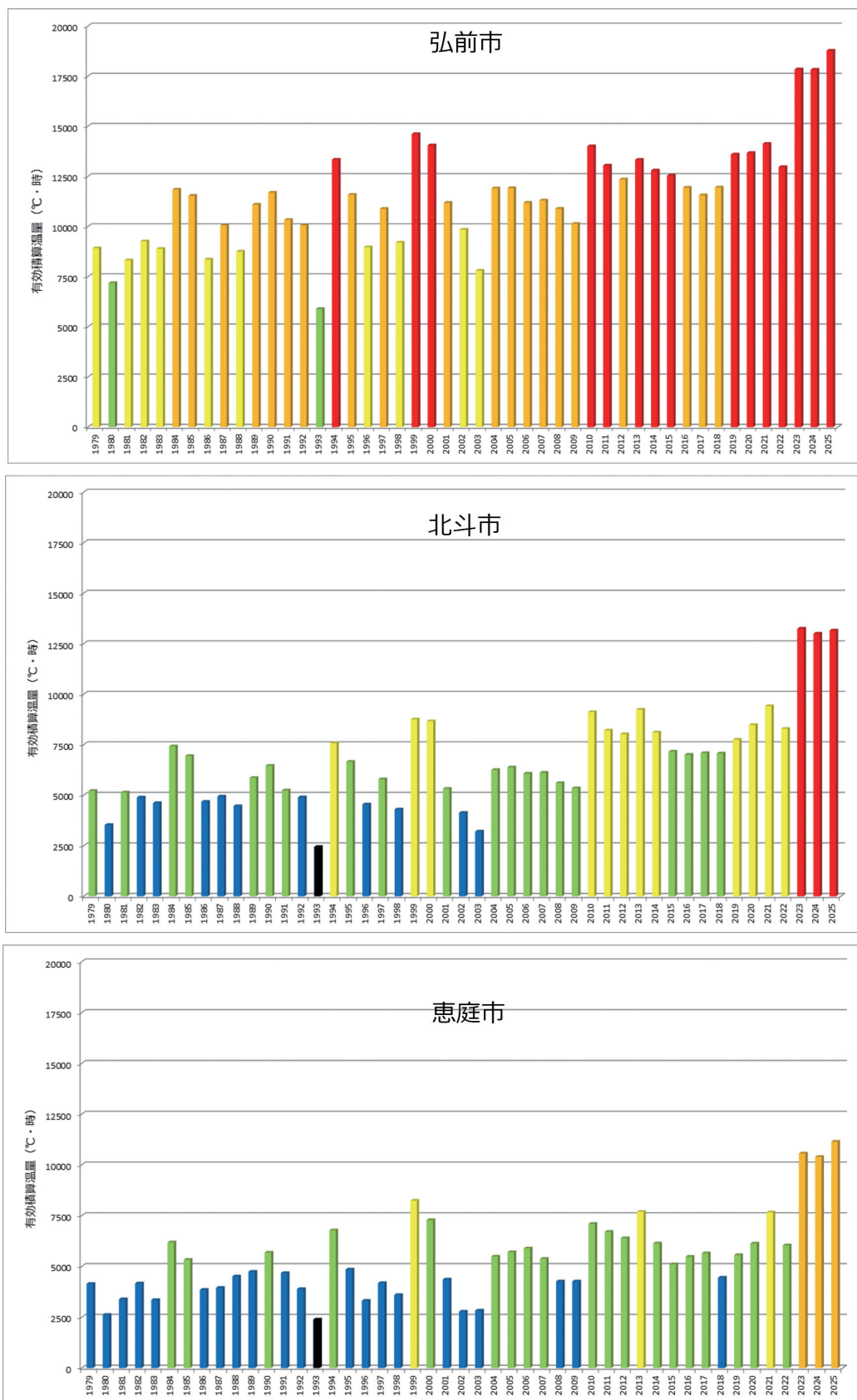
図7 野幌森林公園大沢口付近の日別積雪深（2002～2024年）

置の地上高の平均値は74.9cmという結果が得られている（安藤 2021）。なお、北海道でも奥尻島ではウダイカンバやエゾニワトコの枝に産卵された卵囊の地上高が125～150cmであったことが確認されている（丹羽 私信）。これに対し、野幌森林公園で確認された卵囊の地上高は極端に低く、地面に近い位置に産卵されていたことが明らかになった（図2）。

オオカマキリの分布地である青森県弘前市と道南の北斗市、恵庭市の年最低気温を1979～2025年の期間で比較したところ（図6）、オオカマキリの卵囊が凍る過冷

却点 $-18\sim-20^{\circ}\text{C}$ を下回る年は弘前市と北斗市では認められなかったのに対し、恵庭市では多くの年でこの過冷却点を下回る最低気温が記録されていた。そのため、雪に埋もれない高い位置の卵囊は、恵庭市周辺では越冬が難しい年もあると考えられる。

野幌森林公園で計測された2002～2024年の積雪データ（図7）と比較すると、平均的な高さに産卵された卵囊は、平年であれば12月中旬から3月下旬にかけての厳冬期に雪の下に埋まり、比較的 0°C に近い暖かい環境で越冬できると考えられる。極端に雪の少ない年でも、1



出典：気象庁ホームページ (<https://www.data.jma.go.jp/risk/obsdl/index.php>) を加工
 なお、ここで有効積算温度とは時間毎の気温のうち18℃以上の温度の積算値を示す

図8 弘前市、北斗市、恵庭市のオオカマキリ有効積算温度の比較

月上旬から3月中旬の期間には雪の下に埋もれることになる。

オオカマキリの卵嚢は雪に埋もれても98%以上の卵が孵化することが確認されており（安藤 2008；安藤 2021）、北海道内には冬期に -30°C に達する非常に寒冷な地域も存在するものの、積雪さえ十分にあれば、低い位置に産卵された卵嚢は越冬に関しては大きな問題は生じないと考えられる。

野幌森林公園周辺の卵嚢が産み付けられた植物体の直径は $1.7\sim 6.7\text{mm}$ 、平均 4.1mm であった（図3）。この数値は、本州で観察された植物体の直径 $2\sim 6\text{mm}$ とほぼ合致している（安藤 2021）。このことから、産卵植物の直径が産卵位置の高さに影響を与えている要因ではないと判断できる。

以上から、オオカマキリの定着に関わる気候条件として重要なのは、従来想定されてきた越冬障害としての冬の低温は、積雪域では雪に埋もれて越冬できるため大きな障害にはならないと判断できる。むしろ秋から夏にかけて成長し成熟・繁殖するための温度条件がより重要であると推測される。

5-3 成長に必要な有効積算温度

オオカマキリの卵は休眠しないことが知られており、産卵された秋から翌春まで、加温されればいつでも孵化する。安藤（2021）による弘前での実験結果では、実験室では 25°C で保温すると36日で孵化し、 20°C で保温すると106日で孵化した。

オオカマキリの卵の発育零点（発育が停止する温度）は 18°C と非常に高いことが確認されており（安藤 2021）、これを基準として有効積算温度を算出することができる。有効積算温度とは、孵化など成長に利用できる熱量の総和を意味し、毎時（あるいは日平均気温）から発育零点（ここでは 18°C ）を引いた値を累積した数値で示され、単位は $^{\circ}\text{C}\cdot\text{時}$ （もしくは $^{\circ}\text{C}\cdot\text{日}$ ）である。弘前の場合、孵化までに必要な有効積算温度は、 25°C 条件で $6,000^{\circ}\text{C}\cdot\text{時}$ 、 20°C 条件で $5,000^{\circ}\text{C}\cdot\text{時}$ と算出された。この数値が分かれば逆に気温データから孵化時期などを予測することができる。

産卵直後の9月から翌年の羽化時期である8月までを1繁殖サイクルと考え、その期間の有効積算温度を計算した。地域による温度条件の違いを調べるために、オオカマキリの分布地である青森県弘前市と道南の北斗市、および恵庭市の1979～2025年のデータを比較した（図8）。図によると、弘前>北斗>恵庭の順でオオカマキリが成長に利用できる温度が多いことが分かる。また、温度は年によって大きく変動しており、特に2023～2025年の温度は顕著に多かった。例えば、より北に位置する

恵庭でも、ここ3年の温度はかつての弘前や北斗に匹敵するレベルまで増加したことが分かる。

具体的な孵化時期と気温との関係を調べる。弘前市での孵化時期は、安藤（2008）によると、5月下旬～6月、羽化時期は8月中下旬に観察されており、卵が孵化して成虫になるまでには2か月から2か月半を要する。北海道で成虫が確認される8月中旬から逆算すると、6月上旬までに孵化している必要があるが、アメダスの気象データからその時期までの積算温度を計算すると、約 $4,000^{\circ}\text{C}\cdot\text{時}$ にとどまり、孵化までに必要とされる温度である $5,000\sim 6,000^{\circ}\text{C}\cdot\text{時}$ には達しなかった。

アメダスの気温は地上高 1.5m で計測されているのに対し、野幌森林公園で調査した卵嚢の平均地上高は 23.1cm であった。卵が地表近くにあり、太陽の直射日光を受けるとともに地表からの輻射熱も受けることで、卵嚢周辺の実際の温度はアメダスの観測値より高く、有効積算温度がより大きくなっている可能性がある。この点については、今後仮説を検証するための調査が必要である。

5-4 道南と道央個体群の羽化時期について

観察例は少ないが重要な知見と考えられるため、ここに記しておく。筆者の堀は、2024年8月16日に野幌森林公園でバッタの観察会を実施した際にオオカマキリ成虫2個体を確認した（表1 No.248）。その後、道南へ移動してオオカマキリの生息調査を行い、8月18日に松前町の3地域で確認できた3個体はすべて終齢幼虫であった（表1 No.259）。

この観察結果は、もともとの生息地である道南のオオカマキリの羽化時期よりも、道央に侵入したオオカマキリの個体群の方が短期間で成長し、より早い時期に羽化する形質を有している可能性を示唆している。

5.5 個体数増大と定着要因

なぜ、これまで定期的に侵入してきたにもかかわらず定着できなかったオオカマキリが、近年になって急激に個体数を増大させるに至ったのか、その要因を考える必要がある。

要因は大きく2つあると考えている。一つは、侵入してきた個体群がより北方の環境に適応してきた可能性があること、もう一つは2023～2025年にかけての3カ年、著しい高温が続いたことである。以下にそれらについて詳述する。

オオカマキリは、日本の北方個体群と南方個体群で生活史形質が大きく異なることが知られている。具体的には、北方個体群ほど、

- ・羽化時期が早い
- ・産卵時期が早い
- ・脱皮回数が少ない
- ・幼虫期間が短い
- ・卵期間が短い
- ・発育速度が速い
- ・成虫サイズが小さい
- ・卵嚢サイズが小さい

という傾向を示す。このため、南方個体群の卵嚢が北方地域に持ち込まれても、遺伝的に暖地に適応している場合、寒冷な気候条件に適応できず、淘汰されると考えられている（安藤 2021）。

北海道道央圏に入ってきたオオカマキリがどこから入ってきた個体群かは現段階では不明であるが、その導入元の産地によって定着確率は異なってくると考えられる。今後、継続して定着が確認された場合、上記の生活史形質の変化に焦点を当てた調査の進展が望まれる。

2023年から2025年にかけての3年間は、それ以前の気温と一線を画す温暖な年が続いた（図8）。この期間、繁殖期の有効積算温量が、より北方にある恵庭市でも弘前市や北斗市に匹敵する10,000°C・時に到達し、オオカマキリの生息に極めて好適な温度条件を満たした年が3年連続で継続し、個体数増加につながったと考えられる（図8）。

最後に、もうひとつ要因をあげるとすると、北海道という新しい地域に定着しつつあるカマキリにとって有利な条件として、卵に寄生するカマキリタマゴカツオブシムシやオナガアシブトコバチなどの天敵が少ないことが指摘されている（安藤 私信）。

6 おわりに

生物分布の変化という即時性の求められる課題において、メーリングリストやSNS等のネットワークを利用した情報収集が力を発揮した例の1つになったと考えている。

本調査により、過去から何度も侵入と消滅を繰り返しながらも定着に至っていなかった北海道道央域のオオカマキリが、ここ数年で個体数を増やし広く定着し始めたことが明らかになった。2025年は北海道道央域におけるオオカマキリの定着元年とも言える。

その要因として以下のことが考えられる。

- ・寒冷地でも積雪下で越冬を可能とする、地上に近い位置に産卵する習性の獲得

- ・確認例は少数だが、少ない温量で成虫まで育つ速い成長速度を獲得した可能性

- ・2023～2025年の高温は、オオカマキリの成育に十分な温量が確保されたこと

それらの結果、石狩・胆振・日高地方では繁殖が連続

し、きわめて高密度の個体群が形成されるようになったと考えられる。

この新たな習性と気温傾向が続けば、単発の記録のあった留萌、十勝・上川・オホーツク地方においても定着が進む可能性があり、今後も北海道における温暖化による生物相の変化の実例としてオオカマキリの分布拡大過程を注意深くモニタリングしていくことが望まれる。

謝辞

北海道におけるオオカマキリの分布や生態情報収集に際し、多くの方々にご協力いただいた。深く感謝申し上げます。以下に協力者の氏名を記す。

青塚昭仁氏、明石信廣氏、浅野浩史氏、旭夢稀氏、安倍隆氏、阿保秀都氏、新川剛生氏、新出拓海氏、有賀望氏、安細元啓氏、飯田和也氏、池田亨嘉氏、石塚正仁氏、伊勢伸哉氏、板垣智子氏、逸見和栄氏、猪俣拓也氏、井本暢正氏、薄葉悠氏、内山恭子氏、梅津康弘氏、占部智史氏、江崎逸郎氏、榎本尊氏、猪俣拓也氏、扇谷真知子氏、大坂拓氏、大島成生氏、大原昌宏氏、小川直記氏、小川由真氏、小澤儀洋氏、オニムシ（虫取り漫画家）氏、小野大優氏、小畑淳毅氏、尾針由真氏、嘉賀諒氏、門屋勝雄氏、金子司氏、川崎映氏、神戸崇氏、菊池那樹氏、北井則浩氏、久世貴世氏、工藤晃央氏、國兼信之氏、黒谷雅代氏、幸崎健吾氏、越崎聖也氏、小玉愛子氏、小松利民氏、是澤櫻子氏、近藤直人氏、斎藤和範氏、齊藤佳太氏、齋藤央氏、坂井柗紀氏、坂口光悦氏、坂田潤一氏、坂本一将氏、桜井あけみ氏、笹野潔氏、佐藤静子氏、佐藤武琉氏、佐藤秀史氏、佐藤広行氏、澤井日出晴氏、柴多浩一氏、島津亮太氏、城坂（平林）結実氏、シン・ウォンジ氏、神真琴氏、進藤夢恭氏、鈴木修一氏、鈴木真智子氏、澄川大輔氏、高井孝太郎氏、高木聡氏、高木貢氏、高野将紘氏、高橋佳久氏、高松慎吾氏、武田忠義氏、田中康平氏、張元昊氏、対馬誠氏、土井克也氏、堂本菜々実氏、徳田龍弘氏、刀瀬浩一氏、中川規圭氏、中島宏章氏、長坂道氏、長代拓真氏、中田剛司氏、永田優氏、中村真樹子氏、成田敦史氏、西希氏、西村智弘氏、丹羽真一氏、野村昭英氏、橋爪久良子氏、長谷川英裕氏、長谷川雅広氏、畠誠氏、馬場洋子氏、林原和哉氏、原内樹氏、原内裕氏、藤枝雅雄、藤田淳一氏、本間隆太氏、松浦冬真氏、松尾博都氏、水島未記氏、三橋昂貴氏、村田悠紀氏、守谷李佐子氏、元島秋雄氏、森下徹氏、築田将一氏、矢部玲子氏、山口千春氏、山崎真実氏、山田央氏、山本亜生氏、吉住真由美氏、吉沼利晃氏、渡辺修氏のほか、あすかの森認定こども園、北広島市立大曲東小学校、北広島市立北の台小学校、北広島市立西部小学校、北広島市立東部小学校、北広島市立双葉小学校、北広島市立緑が丘小学校、国立アイヌ民

族博物館、(株)地域環境計画、道南の理科教員、野幌森林公園自然ふれあい交流館、まおい学びのさと小学校、北海道立総合研究機構林業試験場(美唄市)、以上の関係者の皆さんに多大な支援をいただいた。また、施設や公園の利用者、ならびに多くの道民の方々にも重ねてお礼申し上げる。

オオカマキリの飼育から繁殖生態に関する実験的な研究で知られる安藤喜一氏には、その著書から多くのことを学ばせていただいたほか、著者らの質問にも丁寧に答えていただき、オオカマキリの理解を大いに助けていただいた。

本研究は、北海道博物館の「道民・地域との連携・協働による地域情報集積プロジェクト」の一環「野幌森林公園の生物インベントリ調査(第三次)」として実施した。

引用文献

- 安藤喜一 2008. オオカマキリの耐雪性 『耐性の昆虫学』: 57-67 東海大学出版会
- 安藤喜一 2021. カマキリに学ぶ: 214pp, 北隆館, 東京.
- 石原 保 1965. カマキリ科 Mantidae: 59-60, 原色昆虫大図鑑 第3巻(安松京三・朝比奈正二郎・石原 保 監修), 北隆館, 東京.
- 石原 保 1990. 学研生物図鑑昆虫IIIバツタ・ハチ・セミ・トンボほか: 402pp, 学研, 東京.
- 井村洋介 2018. 札幌市でココマキリを採集. jezoensis (44): 31.
- 榎本 尊・澤井日出晴・猪股拓也 2025. 様似町におけるオオカマキリの採集記録について. 様似町郷土館紀要5: 33-38
- 小川浩太 2013. コカマキリの札幌市初採集記録. jezoensis (39): 26.
- 岡田正哉 2008. カマキリのすべて: 63pp, トンボ出版
- 大井伸一 2017. 伊達市上長和でオオカマキリを採集. jezoensis (43): 119.
- 柏崎 昭 1999. 札幌市中央区におけるハラビロカマキリの記録. jezoensis (26): 181.
- 河内 猛 1952. 真冬に孵化したオオカマキリの餌, 函館昆虫同好会会報創刊号: 6.
- 環境省 1979. オオカマキリ、第2回自然環境基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類)北海道: 34.
- 神田正五 1972. 北海道苫小牧市のオオカマキリ. 月刊むし(19): 24.
- 国兼信之 2013. カマキリの同定, 道南虫の会会報第19号: 13-14.
- 久万田敏夫 1990. カマキリ論争: 298-299. さっぽろ文庫 52, 札幌昆虫記(札幌市教育委員会文化資料室編), 北海道新聞社
- 坂田潤一 2013. せたな町北檜山区兜野でオオカマキリの観察. jezoensis (39): 108.
- 佐藤雅彦 2022. 利尻島西部の倉庫にて発見された外来カマキリ. 利尻研究 (41): 27-29.
- 佐藤大毅 2001. オオカマキリの幼虫採集, アイノ38: 17.
- 田川真熙 1966. オオカマキリは道南に普通. エゾシロ (35): 6.
- 田川真熙 2000. オオカマキリについて, 道南虫の会会報第6回: 50.
- 田口 明 1980. 北海道未記録?の昆虫. 昆虫と自然15 (14): 15.
- 中嶋康二 1993. 島牧村でオオカマキリ, アイノ25: 17.
- 中峰 空 2016. カマキリ目: 198-205. 日本産直翅類標準図鑑(日本直翅類学会編), 学研プラス, 東京.
- 中峰 空 2021. Order Mantodea 蟷螂目(カマキリ目): 72-74. 日本昆虫目録第3巻(日本昆虫目録編集委員会編), 日本昆虫学会・権歌書房, 福岡.
- 函館市 1935. 第十章生物, 第一節函館附近の動物, 函館市史: 642-647.
- 長谷日呂志 2001. オオカマキリの記録, アイノ38: 11.
- 春山昌夫 1957. 函館附近の直翅類について, エゾシロ15: 4-5.
- 日浦 勇 1977. カマキリ科 Mantidae: 47-48. 全改訂新版原色日本昆虫図鑑(下)(伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦 勇編), 保育社, 大阪.
- 星義雄 1969. オオカマキリの観察, HORNET7: 1-2.
- 北海道新聞 1994年11月15日(小樽・後志) なんて寒い!? 生まれたら雪国*市内にオオカマキリ
- 北海道新聞 2007年11月13日(小樽・後志) オオカマキリが小樽で見つかる 八雲町が北限、温暖化の影響?
- 北海道新聞 2008年9月18日(全道) オオカマキリ余市にもいた温暖化で越冬可能に?
- 北海道新聞 2008年9月30日(札幌圏)、オオカマキリ札幌にもいた! 北区、東区の民家で次々発見
- 北海道新聞 2012年11月8日(札幌圏)、カマキリ恵庭に 安部さん捕獲(幼体での確認)
- 北海道新聞 2014年10月3日(札幌圏)、北限は道南のはず…カマキリ石狩に
- 北海道新聞 2023年9月7日(空知)、夕張でオオカマキリ「捕獲初めて」体長8センチ 元芸員「子どもに見せたい」
- 北海道新聞 2025年9月10日(苫小牧日高圏)、「長万部北限」オオカマキリ苫小牧に 目撃相次ぐ
- 北海道新聞 2025年10月10日、オオカマキリ? 占冠、富良野で相次ぎ見つかる「卵のう」も温暖化で生息域北上か
- 北海道新聞 2025年10月18日(札幌圏)、ススキノでカマキリ発見 札幌や北広島など目撃100件超え 越冬し世代交代「北海道に定着」か
- 堀繁久・水島未記・永安芳江 2003. 平地森林の生物インベントリ調査と環境指標種の検討, 北海道開拓記念館調査報告 42: 103-104.
- 堀繁久・神真琴・水島未記・表溪太 2025. 野幌森林公園の観察会で確認されたバツタ目昆虫種の変化, 北海道博物館研究紀要10: 215-226.
- 本部哲矢 2021. 北海道士別市で発見されたチョウセンカマキリの収集記録. 士別市立博物館報告, (39): 53-55.
- 前田俊信 2000. 乙部町でのオオカマキリの記録. jezoensis (27): 61.
- 棟方明陽 1997. 第5章動物相, 第3節昆虫目録. pp. 335-357. 新奥尻町史・上巻(奥尻町編), 奥尻町
- 山本亜生・小田桐亮・山崎真実 2025. 道央地域におけるカマキリ目の記録, 小樽市総合博物館紀要 38: 7-11.
- 米倉浩司・梶田忠 (2007-) 「植物和名一学名インデックス YList」(YList), <http://ylist.info> (2025年12月30日)

表1 北海道のオオカマキリ確認情報

※ 区分 (LI: 文献、NP: 新聞記事、ML: 北海道自然史研究会、DM: 道南虫の会、HK: 北海道昆虫同好会、MS: 北海道博物館、fb: Facebook、X: 旧Twitter、PL: 私信)、地区名 (NFP: 野幌森林公園、TSHP: 滝野すずらん丘陵公園)、文献情報は、著者 (発行年) で示す

No	区分	情報提供者/文献	確認者	確認態	個体数	確認年	確認日	市町村	地区名	写真
1	LI	函館市 (1935)	文献	成虫		1935	1935年以前	函館市	函館市	
2	LI	河内 (1952)	文献	卵囊	1	1951	1951/12/25	函館市	湯川	
3	LI	田川 (1966)	文献	成虫		1966	1966年以前	函館市	函館市	
4	LI	久万田敏夫	文献	成虫	1	1970	1970/8/22	江別市	江別市大麻	
5	ML	小松利民	本人	成虫	1	1971	1971年	函館市	日吉町	
6	LI	神田 (1972)	文献	成虫	1	1972	1972/8/30	苫小牧市	苫小牧港付近の草地	
7	DM	林原和哉	本人	卵囊	1	1973	1973/10月	函館市	函館山千畳敷	
8	LI	田川 (2000)	文献	卵囊	1	1975	1975/5/28	厚沢部町	厚沢部町町営グランド	
9	PL	大島成生	本人	幼虫	多数	1975	1975/5/28	札幌市西区	秀寒	
10	LI	環境庁 (1979)	文献	成虫	++	1978	1978年以前	江差町	水堀町 砂坂砂防林	
11	LI	環境庁 (1979)	文献	成虫	-	1978	1978年以前	北斗市	七重浜	
12	LI	環境庁 (1979)	文献	成虫	++	1978	1978年以前	七飯町	鳴川	
13	LI	環境庁 (1979)	文献	成虫	-	1978	1978年以前	函館市	滝沢町	
14	LI	環境庁 (1979)	文献	成虫	-	1978	1978年以前	函館市	見晴町香雪園	
15	LI	環境庁 (1979)	文献	成虫	-	1978	1978年以前	函館市	函館山	
16	LI	環境庁 (1979)	文献	成虫	+	1978	1978年以前	函館市	東山町東山	
17	LI	環境庁 (1979)	文献	成虫	-	1978	1978年以前	函館市	鈴蘭町鈴蘭丘	
18	LI	環境庁 (1979)	文献	成虫	-	1978	1978年以前	奥尻町	奥尻島	
19	DM	國兼信之	本人	成虫	1	1981	1981/8/25	知内町	元町	
20	PL	北井則浩	本人	幼虫	1♀	1982	1982年	札幌市西区	西野	
21	ML	小松利民	本人	成虫	1	1984	1984年	函館市	湯川町	
22	PL	安細元啓	本人	成虫	1	1991	1991/8/27	上ノ国町	大安在	
23	LI	中嶋 (1993)	文献	成虫	1	1992	1992/9/2	島牧村	永豊	
24	NP	北海道新聞 (1994/11/15)	紙面	成虫	1	1994	1994/11/7	小樽市	長橋町	
25	LI	田川 (2000)	文献	卵囊	1	2000	2000/6/22	函館市	東山	
26	LI	前田 (2000)	文献	成虫	2	2000	2000/9/30	乙部町	緑町	
27	ML	小松利民	本人	成虫	1	2000	2000年	松前町	白神岬	
28	LI	長谷 (2001)	文献	成虫	1	2000	2000/10/2	函館市	桔梗町	
29	LI	前田 (2000)	文献	卵囊	5	2000	2000/10/17	乙部町	姫川	
30	LI	佐藤 (2001)	文献	成虫	3	2001	2001/8/17	函館市	戸井地区(戸井町)	
31	DM	林原和哉	本人	成虫	2	2001	2001/9/9	函館市	神山町	
32	ML	斎藤和範	道南の理科教員	成虫	1	2001	2001年	函館市	戸井方面	
33	ML	斎藤和範	本人・刀禰浩一	成虫	1	2002	2002/8/19	森町	森川町	
34	LI	保田 (2014)	文献	幼虫	2	2005	2005/7/23	上川町	層雲峡黒岳	
35	ML	堀繁久	本人	成虫	1	2006	2006/9/24	松前町	大沢	写真11
36	LI	坂田 (2013)	文献	卵囊	2	2007	2007/3/24	せたな町	北檜山区兜野	
37	ML	堀繁久	本人	幼虫	1	2007	2007/8/6	木古内町	大平	写真9
38	ML	堀繁久	本人	幼虫	1	2007	2007/8/6	函館市	東山	写真10
39	LI	山本ほか (2025)	文献	成虫	1	2007	2007/11/7	小樽市	潮見台1丁目	
40	NP	北海道新聞 (2007/11/13)	紙面	成虫	1	2007	2007/11/13	小樽市	若竹町	
41	NP	北海道新聞 (2008/9/30)	紙面	成虫	1	2008	2008/9/5、16	札幌市	北区屯田、東区伏古	
42	LI	山本ほか (2025)	文献	成虫	1	2008	2008/9/12	余市町	黒川町2丁目	
43	NP	北海道新聞 (2008/9/1)	紙面	成虫	1	2008	2008/9/12	余市町	余市町黒川町	
44	NP	北海道新聞 (2008/10/9)	紙面	成虫	6	2008	2008/10/9	札幌市西区	雲の沢3-5	
45	LI	山本ほか (2025)	文献	成虫	1	2008	2008/10/26	石狩市	緑苑台東2条2丁目	
46	LI	山本ほか (2025)	文献	成虫	1	2008	2008/10/27	札幌市東区	本町2条4丁目	
47	DM	青塚昭仁	本人	幼虫	1	2009	2009/8/14	八雲町	熊石鮎川	
48	ML	堀繁久	本人	成虫	1	2010	2010/8/28	江差町	柳崎町	
49	DM	野村昭英	本人	成虫	1	2011	2011/8/28	厚沢部町	町本町	
50	ML	堀繁久	本人	成虫	1	2011	2011/8/29・9/25	八雲町	貝取潤	
51	DM	野村昭英	本人	成虫	1	2011	2011/9/2	江差町	鹹川町逆川森林公園	
52	ML	斎藤和範	山田央	成虫	1	2011	2011/9/9	七飯町	鳴川	
53	PL	飯田和也	本人	成虫	1	2011	2011/9/9	七飯町	鳴川町	
54	DM	野村昭英	本人	成虫	1	2011	2011/9/23	乙部町	館浦	
55	DM	國兼信之	本人	卵囊	1	2011	2011/11/3	福島町	三岳	
56	DM	野村昭英	本人	成虫	1	2012	2012/9/17	厚沢部町	新町	
57	DM	野村昭英	本人	成虫	1	2012	2012/10/14	厚沢部町	新町	
58	NP	北海道新聞 (2012/11/8)	紙面	成虫	1	2012	2012/11/6	恵庭市	相生町	
59	PL	安細元啓	本人	幼虫	1	2013	2013/5/13	松前町	町館浜	
60	DM	野村昭英	本人	卵鞘	1	2013	2013/5/19	厚沢部町	上里	
61	DM	野村昭英	本人	幼虫	1	2013	2013/8/11	厚沢部町	赤沼町	
62	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2013	2013/8/30	函館市	高丘町	
63	DM	野村昭英	本人	成虫	1	2013	2013/9/1	厚沢部町	緑町	
64	DM	國兼信之	本人	成虫	1	2013	2013/9/3	知内町	元町	
65	ML	堀繁久	本人	成虫	1	2013	2013/9/9	函館市	恵山	写真12
66	DM	國兼信之	本人	成虫	1	2013	2013/9/10	知内町	湯の里	
67	LI	国兼 (2013)	文献	成虫	1	2013	2013/9/23	知内町	湯の里	
68	DM	青塚昭仁	本人	幼虫	1	2013	2013/9/28	札幌市北区	屯田	
69	PL	安細元啓	本人	成虫	3	2013	2013/10/2	函館市	日吉	
70	DM	野村昭英	本人	卵鞘	1	2013	2013/11/24	厚沢部町	厚赤沼町	
71	DM	野村昭英	本人	卵鞘	1	2014	2014/4/19	厚沢部町	赤沼町	
72	DM	野村昭英	本人	幼虫	1	2014	2014/8/3	厚沢部町	新町	
73	DM	青塚昭仁	本人	幼虫	1	2014	2014/8/13	松前町	原口	
74	NP	北海道新聞 (2014/10/3)	紙面	成虫	1	2014	2014/9/27	石狩市	花川	
75	LI	大井 (2017)	文献	成虫	多数	2014	2014	八雲町	山崎	
76	DM	野村昭英	本人	卵鞘	1	2014	2014/11/26	江差町	鹹川町	

堀 繁久・中森 達 2025年に北海道で大発生したオオカマキリについて

表1 北海道のオオカマキリ確認情報 つづき2

No	区分	情報提供者/文献	確認者	確認態	個体数	確認年	確認日	市町村	地区名	写真
77	ML	有賀望	本人	幼虫	1	2015	2015/6/6	札幌市中央区	宮ヶ丘3	
78	ML	有賀望	本人	成虫	2	2015	2015/9/6	札幌市中央区	宮ヶ丘4	
79	LI	大井 (2017)	文献	成虫	1	2015	2015/9/17	伊達氏	上長和	
80	PL	山田央	本人	成虫	1	2015	2015/10/4	七飯町	本町	
81	DM	野村昭英	本人	成虫	1	2015	2015/10/7	江差町	五厘沢町	
82	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2016	2016/8/19	函館市	高丘町	
83	ML	堀繁久	神真琴	卵囊	1	2017	2017/4/17	江別市	緑町	
84	ML	丹羽真一	本人	卵囊	1	2017	2017/6/7	奥尻町	字米岡	
85	DM	青塚昭仁	本人	成虫	1	2017	2017/9/3	厚沢部町	本町	
86	DM	青塚昭仁	本人	成虫	1	2017	2017/9/9	札幌市北区	屯田	
87	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2017	2017/9/16	松前町	札前	
88	DM	青塚昭仁	本人	成虫	1	2017	2017/9/23	乙部町	館浦	
89	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2017	2017/10/15	函館市	紅葉山町	
90	DM	林原和哉	本人	幼虫	1	2018	2018/6/24	函館市	汐首町	
91	DM	青塚昭仁	本人	成虫	1	2018	2018/9/1	上ノ国町	小砂子	
92	DM	青塚昭仁	本人	幼虫	1	2019	2019/7/12	乙部町	元町	
93	DM	青塚昭仁	本人	成虫	1	2019	2019/9/3	松前町	建石	
94	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2019	2019/9/5	函館市	汐首町	
95	LI	山本ほか (2025)	文献	成虫	1	2019	2019/10/21	余市町	黒川町18丁目	
96	ML	丹羽真一	本人	卵囊	1	2019	2019/10/28	江差町	榎川海岸	
97	DM	林原和哉	本人	幼虫	1	2020	2020/8/8	乙部町	緑町	
98	ML	堀繁久	神真琴	成虫	1	2020	2020/8/15	江別市	大麻	
99	DM	野村昭英	本人	成虫	1	2020	2020/8/22	江差町	柳崎町	
100	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2020	2020/9/2	函館市	高丘町	
101	LI	山本ほか (2025)	文献	成虫	1	2020	2020/9/13	蘭越町	蘭越	
102	ML	菊池那樹	本人	卵囊	2	2020	2020年秋	札幌市中央区	円山公園	
103	DM	青塚昭仁	本人	成虫	1	2020	2020/9/19	乙部町	緑町	
104	DM	青塚昭仁	本人	成虫	1	2020	2020/9/19	上ノ国町	小安在	
105	ML	丹羽真一	本人	卵囊	1	2020	2020/10/5	八雲町	ヤカ山	
106	LI	山本ほか (2025)	文献	成虫	2	2020	2020/10/9	余市町	登町	
107	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2020	2020/10/10	函館市	高丘町	
108	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2021	2021/8/13	函館市	高丘町	
109	DM	野村昭英	本人	成虫	1	2021	2021/8/21	厚沢部町	新町	
110	ML	堀繁久	本人	成虫	1	2021	2021/8/28	松前町	大沢	
111	DM	青塚昭仁	本人	成虫	1	2021	2021/8/29	乙部町	緑町	
112	ML	堀繁久	本人	成虫	1	2021	2021/9/6	むかわ町	洋光	
113	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2021	2021/9/17	函館市	高丘町	
114	DM	青塚昭仁	本人	成虫	1	2021	2021/9/19	福島町	三岳	
115	ML	丹羽真一	本人	卵囊	1	2021	2021/10/3	奥尻町	字米岡	
116	DM	青塚昭仁	本人	卵囊	1	2021	2021/10/5	せたな町	大成区貝取潤	
117	DM	青塚昭仁	本人	成虫	1	2021	2021/10/5	八雲町	熊石鮎川	
118	PL	安細元啓	本人	成虫	3	2021	2021/10/6	厚沢部町	沼/沢	
119	DM	林原和哉	本人	卵囊	1	2022	2022/4/10	厚沢部町	当路	
120	DM	青塚昭仁	本人	卵囊	1	2022	2022/5/5	函館市	石倉町	
121	DM	青塚昭仁	本人	幼虫	1	2022	2022/5/11	札幌市北区	屯田	
122	DM	青塚昭仁	本人	幼虫	1	2022	2022/5/14	札幌市北区	屯田	
123	ML	長谷川雅広	本人	幼虫	1	2022	2022年6月	札幌市豊平区	西岡水源池	
124	DM	青塚昭仁	本人	幼虫	1	2022	2022/7/3	せたな町	大成区貝取潤	
125	DM	青塚昭仁	本人	幼虫	1	2022	2022/7/18	上ノ国町	町勝山	
126	DM	青塚昭仁	本人	幼虫	1	2022	2022/7/24	福島町	三岳	
127	ML	長谷川雅広	本人	成虫	1	2022	2022年夏	札幌市豊平区	豊平区西岡水源池	
128	DM	青塚昭仁	本人	幼虫	1	2022	2022/8/21	八雲町	熊石鮎川	
129	DM	林原和哉	本人	幼虫	1	2022	2022/8/24	函館市	高丘町	
130	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2022	2022/8/25	函館市	高丘町	
131	PL	北井則浩	本人	成虫	1♀	2022	2022/8月	厚真町	幌内	
132	LI	山本ほか (2025)	文献	成虫	1	2022	2022/9/6	むかわ町	穂別	
133	DM	野村昭英	本人	成虫	1	2022	2022/9/9	厚沢部町	新町	
134	ML	丹羽真一	本人	成虫	1	2022	2022/9/15	奥尻町	字松江(長浜)	
135	PL	安細元啓	本人	成虫	1	2022	2022/9/28	松前町	白坂	
136	LI	山本ほか (2025)	文献	成虫	1	2022	2022/10/12	小樽市	塩谷1丁目	
137	DM	青塚昭仁	本人	成虫	1	2023	2023/8/11	北斗市	当別	
138	ML	長谷川雅広	本人	成虫	1	2023	2023年夏	札幌市豊平区	西岡水源池	
139	NP	北海道新聞 2023/9/7	紙面	成虫	1	2023	2023/8/29	夕張市	清水沢	
140	LI	榎本ほか (2025)	文献	幼虫	1	2023	2023/9/6・9/9	様似町	栄町	
141	LI	榎本ほか (2025)	文献	成虫	1	2023	2023/9/8	様似町	栄町イイ火まつり倉庫	
142	LI	榎本ほか (2025)	文献	成虫・幼虫	5	2023	2023/9/11	様似町	栄町様似川左岸河川敷	
143	LI	榎本ほか (2025)	文献	成虫	1	2023	2023/9/20	様似町	栄町	
144	ML	久世貴世	本人	成虫	1	2023	2023/9/24	厚真町	厚真中央墓地	
145	PL	山田央	本人	成虫	1	2023	2023/9/26	七飯町	鳴川町	
146	ML	齋藤和範	山田央	成虫	1	2023	2023/10/4	七飯町	本町	
147	ML	丹羽真一	本人	卵囊	1	2023	2023/10/14	上ノ国町	大洞浜	
148	ML	丹羽真一	本人	成虫	1	2023	2023/10/14	上ノ国町	夷王山	
149	PL	澄川大輔	知人	成虫	1	2023	2023/10/14	江別市	東野幌148	
150	DM	國兼信之	本人	卵囊	5	2024	2024/4/4	函館市	石川町	
151	DM	青塚昭仁	本人	卵囊	1	2024	2024/4/15	函館市	石川町	
152	PL	大島成生	本人	幼虫	1	2024	2024/6/上旬	札幌市西区	西町	
153	ML	丹羽真一	本人	卵囊	1	2024	2024/6/9	乙部町	豊浜	
154	DM	林原和哉	本人	幼虫	2	2024	2024/7/13	北斗市	万太郎沢	
155	DM	林原和哉	本人	幼虫	1	2024	2024/7/14	上ノ国町	湯/岱中/沢	

表1 北海道のオオカマキリ確認情報 つづき3

No	区分	情報提供者/文献	確認者	確認態	個体数	確認年	確認日	市町村	地区名	写真
156	PL	安細元啓	本人	幼虫	1	2024	2024/7/30	八雲町	黒岩	
157	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2024	2024/8/15	函館市	高丘町	
158	ML	堀繁久	長代拓真	成虫	1	2024	2024/8/15	江別市	大麻	
159	ML	江崎逸郎	本人	成虫	1	2024	2024/8/17	苫小牧市	植苗	
160	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2024	2024/8/19	函館市	高丘町	
161	DM	青塚昭仁	本人	成虫	1	2024	2024/8/25	北斗市	当別	
162	ML	江崎逸郎	本人	成虫	1	2024	2024/8/25	苫小牧市	錦町	
163	PL	大島成生	本人	成虫	9♂・11♀	2024	2024/8/25	厚真町	幌内	
164	PL	大島成生	本人	幼虫	2終齢	2024	2024/8/25	厚真町	幌内	
165	DM	井本鶴正	本人	成虫	1	2024	2024/8/26	七飯町	上軍川	
166	PL	安細元啓	本人	成虫	1	2024	2024/8/28	八雲町	黒岩	
167	PL	安細元啓	本人	成虫・卵囊	1	2024	2024/8/29	八雲町	黒岩	
168	ML	江崎逸郎	本人	成虫	1	2024	2024/8/30	苫小牧市	美沢ノサ ンホスパーク	
169	ML	齋藤 和範	道南の理科教員	成虫	1	2024	2024/9/1	余市町	農道離着陸場	
170	PL	大島成生	本人	成虫	8♂・20♀	2024	2024/9/4	厚真町	幌内	
171	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2024	2024/9/7	函館市	柏野町(恵山)	
172	fb	矢部玲子	本人	成虫	1	2024	2024/9/7	千歳市	向陽台	
173	ML	堀繁久	弱谷真知子	成虫	1	2024	2024/9/8	札幌市厚別区	小野幌北海道開拓の村	写真13
174	fb	堀繁久	柴多浩一	成虫	1	2024	2024/9/11	帯広市	西19条南5丁目	
175	ML	西村智弘	本人	成虫	1	2024	2024年秋	むかわ町	穂別市街地	
176	ML	畠誠	本人	成虫	1	2024	2024/9	北広島市	広葉町	
177	DM	林原和哉	本人	成虫	2	2024	2024/9/16	函館市	紅葉山町	
178	DM	林原和哉	本人	成虫	2	2024	2024/9/16	函館市	陣川2丁目	
179	DM	野村昭英	本人	成虫	1	2024	2024/9/20	厚沢部町	新町	
180	ML	堀繁久	高木貢	成虫	1	2024	2024/9/20	夕張市	沼ノ沢	
181	DM	林原和哉	本人	成虫	3	2024	2024/9/23	乙部町	緑町	
182	ML	久世貴世	本人	卵囊	1	2024	2024/9/23	厚真町	幌里	
183	DM	対馬誠	山口千春	成虫・卵囊	1	2024	2024/9/27	北斗市	七重浜	
184	ML	江崎逸郎	本人	成虫	1	2024	2024/9/27	苫小牧市	柏原	
185	DM	嘉賀諒	本人	成虫	1	2024	2024/9/30	松前町	大森線	
186	DM	嘉賀諒	本人	成虫	4	2024	2024/10/1	知内町	湯ノ里	
187	ML	佐藤広行	本人	成虫	1	2024	2024/10/1	函館市	御崎町恵山	
188	ML	畠誠	本人	成虫	1	2024	2024/10/1	栗山町	松風3丁目	
189	ML	島津亮太	本人	幼虫	1	2024	2024/10/8	栗山町	栗山公園御大師山	
190	ML	小畑淳毅	本人	成虫	1	2024	2024/10/10	由仁町	伏見台公園	
191	ML	江崎逸郎	本人	卵囊	1	2024	2024/10/11	苫小牧市	柏原	
192	LI	榎本ほか(2025)	文献	成虫	1	2024	2024/10/16	様似町	栄町が イマまつり倉庫	
193	ML	丹羽真一	本人	卵囊	1	2024	2024/10/16	奥尻町	宇赤石(長浜)	
194	HK	長谷川英裕	本人	成虫	1	2024	2024/10/17	恵庭市	黄金北2丁目	
195	fb	堀繁久	榎井あけみ	成虫	1	2024	2024/10/18	斜里町	外ヶ丘14-2	写真19
196	ML	原内裕	原内樹	幼虫	1	2024	2024/10/23	札幌市北区	篠路5条1丁目2	
197	ML	畠誠	本人	成虫	1	2024	2024/10/24	北広島市	西の里242-1自転車の駅	
198	DM	野村昭英	本人	卵囊	1	2024	2024/12/1	江差町	城川町逆川森林公園	
199	ML	榎本尊	本人	卵囊	1	2024	2024/12/12	様似町	栄町様似川左岸河川敷	
200	ML	榎本尊	菜館者	成虫	1	2024	2024年	苫小牧市	美沢PA	
201	ML	菊池那樹	本人	卵囊	1	2024	2024年	千歳市	美々公立千歳科学技術大学	
202	ML	三橋昂貴	本人	成虫	1	2024	2024年	新ひだか町	静内清水丘	
203	ML	中島宏章	知人	卵囊	1	2024	2024年	島牧村	千走地区	
204	ML	丹羽真一	本人	卵囊	1	2025	2025/4/19	千歳市	駒里	
205	ML	堀繁久	神真琴	幼虫	複数	2025	2025年春	江別市	NFP大沢口付近	
206	PL	近藤直人	本人	幼虫	4	2025	2025/7/5	苫小牧市	静川	
207	PL	阿保秀都	本人	幼虫	1	2025	2025/7/9	江別市	NFP大沢口付近	
208	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025年7月	江別市	西野幌64-1	
209	fb	中田剛司	本人	幼虫	2	2025	2025/7/18	長沼町	北長沼	
210	PL	阿保秀都	本人	幼虫	1	2025	2025/7/21	江別市	NFP大沢口付近	
211	PL	川崎映	本人	幼虫	1	2025	2025/7/21	長沼町	東8線	
212	DM	嘉賀諒	本人	幼虫	1	2025	2025/7/22	千歳市	駒里	
213	ML	江崎逸郎	本人	幼虫	1	2025	2025/7/23	苫小牧市	植苗	
214	PL	阿保秀都	本人	幼虫	1	2025	2025/7/24	江別市	NFP大沢口付近	
215	ML	榎本尊	本人	幼虫	3	2025	2025/7/26	様似町	栄町様似川左岸河川敷	
216	DM	金子司	本人	幼虫	1	2025	2025/7/29	奥尻町	宇奥尻	
217	ML	佐藤広行	本人	成虫	1	2025	2025/7/30	函館市	函館山	
218	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/7月~8月	北広島市	輪厚58-3	
219	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/7月~8月	北広島市	共栄町4丁目6-1	
220	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/7月~8月	北広島市	若葉町3丁目2	
221	ML	神戸崇	本人	幼虫	1	2025	2025/7月下旬	札幌市清田区	清田区白旗山伐採跡地	
222	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/8月上旬	北広島市	新富町西	
223	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/8/6	北広島市	稲穂町西	
224	ML	島津亮太	本人	幼虫	1	2025	2025/8月上旬	栗山町	栗山公園	
225	ML	吉沼利晃	本人	成虫	1	2025	2025/8/11	安平町	早来大町16番地	
226	ML	畠誠	本人	成虫	1	2025	2025/8/12	北広島市	中央北広島市役所	
227	ML	吉沼利晃	本人	成虫	1	2025	2025/8/13	苫小牧市	植苗がけ川	
228	ML	榎本尊	本人	成虫	1	2025	2025/8/15	様似町	栄町が イマまつり倉庫	
229	ML	工藤晃央	本人	成虫	1	2025	2025/8/15	北広島市	松葉町6-1	
230	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/8/15	北広島市	若葉町ひまわり公園	
231	ML	森下徹	本人	成虫	複数	2025	2025/8月	北広島市	市泉町	
232	ML	森下徹	本人	成虫	複数	2025	2025/8月	北広島市	中央	
233	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/8/15	北広島市	広葉町	
234	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/8月中旬	北広島市	北進町	

堀 繁久・中森 達 2025年に北海道で大発生したオオカマキリについて

表1 北海道のオオカマキリ確認情報 つづき4

No	区分	情報提供者/文献	確認者	確認態	個体数	確認年	確認日	市町村	地区名	写真
235	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/8/月	北広島市	富ヶ丘	
236	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/8/月	北広島市	若葉町	
237	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/8/月	北広島市	山の手町	
238	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/8/月	北広島市	高台町	
239	ML	西希	知人	成虫	1	2025	2025/8/月	平取町	本町	
240	ML	西希	知人	成虫	1	2025	2025/8/月	平取町	二風谷74文化博物館	
241	ML	丹羽真一	知人	成虫	1	2025	2025年8/月	長沼町	東6線北長官山	
242	ML	田中康平	本人	成虫	1	2025	2025/8/15	新ひだか町	静内	
243	ML	藤田淳一	本人	成虫	1	2025	2025/8/15	北広島市	西の里57	
244	PL	神真琴	神真琴	成虫	1	2025	2025/8/15	北広島市	FL レッジ	
245	ML	旭夢稀	本人	成虫	2	2025	2025/8/16	日高町	富川	
246	ML	坂井終紀	本人	成虫	1	2025	2025/8/16	札幌市厚別区	厚別中央	
247	ML	中森達	本人	成虫	2	2025	2025/8/16	札幌市厚別区	札幌2条6丁目	
249	ML	堀繁久	神真琴	成虫	2	2025	2025/8/16	江別市	NFP大沢口付近	
250	ML	本間隆太	本人	成虫	1	2025	2025/8/16	江別市	文京台緑町酪農学園大学	
248	PL	堀繁久	観察会参加者	成虫	2	2025	2025/8/16	札幌市厚別区	小野幌NFP記念塔広場付近	写真14
251	ML	江崎逸郎	本人	成虫	1	2025	2025/8/17	苫小牧市	明野新町	
252	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/8/17・31	北広島市	虹ヶ丘	
253	ML	中森達	幸崎健吾	成虫	1	2025	2025/8/17	札幌市清田区	美しが丘1条4丁目	
254	PL	大島成生	本人	成虫	48	2025	2025/8/17	安平町	早来瑞穂	
255	PL	大島成生	本人	幼虫	10終齢幼虫	2025	2025/8/17	安平町	早来瑞穂	
256	ML	堀繁久	高木貢	成虫	1	2025	2025/8/18	夕張市	沼ノ沢	
257	ML	斎藤和範	知人	成虫	1	2025	2025/8/18	苫小牧市	美沢道々13号新千歳空港線	
258	ML	張元昊	本人	成虫	1	2025	2025/8/18	岩見沢市	1条西4丁目	
259	ML	堀繁久	本人	幼虫	3	2025	2025/8/18	松前町	旭、大沢、豊岡	
260	PL	黒谷雅代	本人	成虫	6	2025	2025/8/18	安平町	早来瑞穂	
261	ML	江崎逸郎	本人	成虫	1	2025	2025/8/19	苫小牧市	植苗	
262	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/8/19・23	北広島市	白樺町北広島団地	
263	ML	西村智弘	本人	成虫	1	2025	2025/8/19	むかわ町	穂別市街地	
264	ML	明石信廣	本人	成虫	1	2025	2025/8/19	美唄市	光珠内町東山林業試験場	
265	ML	明石信廣	知人	成虫	1	2025	2025/8/19	美唄市	美唄駅	
266	ML	越崎聖也	本人	成虫	1	2025	2025/8/20	日高町	富川沙流川橋付近	
267	ML	水島未記	知人	成虫	1	2025	2025/8/20	千歳市	豊里	
268	ML	浅野浩史	知人	成虫	2	2025	2025/8/20	平取町	本町	
269	ML	中島宏章	知人	成虫	1	2025	2025/8/20	浦臼町	晩生内	
270	ML	尾針由真	本人	成虫	2	2025	2025/8/20	千歳市	清水町	
271	PL	進藤夢恭	本人	成虫	1	2025	2025/8/20	安平町	瑞穂	
272	PL	進藤夢恭	本人	成虫	1	2025	2025/8/20	岩見沢市	北3条付近	
273	fb	馬場洋子	本人	成虫	1	2025	2025/8/21	平取町	本町緑ヶ丘団地	
274	ML	石塚正仁	本人	成虫	1	2025	2025/8/21	札幌市厚別区	厚別中央1条5丁目4-1	
275	ML	城坂(平林)結実	本人	成虫	1	2025	2025/8/22	美唄市	南美唄町上1条4丁目	
276	ML	水島未記	逸見和栄	成虫	1	2025	2025/8/22	千歳市	未広2丁目	
277	ML	有賀望	本人	成虫	1	2025	2025/8/22	札幌市南区	真駒内公園2-1	
278	ML	高井孝太郎	本人	成虫	1	2025	2025/8/23	千歳市	新富1丁目1-9	
279	ML	高井孝太郎	本人	成虫	1	2025	2025/8/23	千歳市	美々新千歳空港	写真17
280	ML	成田敦史	本人	成虫	1	2025	2025/8/23	北広島市	輪厚522-7輪厚PA	
281	ML	榎本尊	西希	成虫	1	2025	2025/8/24	平取町	荷葉	
282	PL	山本亜生	本人	成虫	1	2025	2025/8/24	むかわ町	穂別80-6穂別博物館	
283	ML	菊池那樹	本人	成虫	1	2025	2025/8/25	栗山町	松風4丁目	
284	ML	菊池那樹	本人	成虫	1	2025	2025/8/25	日高町	富岡国立日高青少年自然の家	
285	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/8月下旬	北広島市	新富町西	
286	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/8月下旬	北広島市	中央	
287	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/8月下旬	北広島市	高台町7丁目4	
288	ML	長谷川雅広	学生さん	成虫	1	2025	2025/8/25	恵庭市	恵み野東7丁目	
289	ML	晶誠	本人	成虫	1	2025	2025/8/25	北広島市	中央北広島市役所	
290	PL	山本亜生	本人	成虫	1	2025	2025/8/25	小樽市	長橋1-2-20相愛保育所	
291	ML	山崎真実	札幌市民	成虫	1	2025	2025/8/26	当別町	高岡	
292	ML	徳田龍弘	知人	成虫	7	2025	2025/8/26	安平町	遠浅	
293	PL	薬田将一	本人	成虫	1	2025	2025/8/26	美唄市	大通り東1条南3丁目	
294	PL	川崎映	本人	成虫	1	2025	2025/8/26	恵庭市	相生町	
295	ML	永田優	町民	成虫	1	2025	2025/8/27	黒松内町	黒松内28-2	
296	ML	菊池那樹	本人	成虫	2	2025	2025/8/27	日高町	富岡国立日高青少年自然の家	
297	ML	菊池那樹	本人	成虫	1	2025	2025/8/27	長沼町	東1線南7番地74の丘公園	
298	ML	長谷川雅広	知人	成虫	1	2025	2025/8/28	北広島市	南町3丁目南公園	
299	PL	神真琴	岡田夕香里	成虫	1	2025	2025/8/28	江別市	緑町飛鳥山公園	
300	DM	野村昭英	本人	成虫	1	2025	2025/8/29	厚沢部町	新町	
301	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/8/29	札幌市厚別区	上野幌上野幌駅周辺	
302	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/8/29	北広島市	新富町東	
303	ML	長谷川雅広	学生さん	成虫	1	2025	2025/8/29	千歳市	平和南千歳駅	
304	ML	長谷川雅広	学生さん	成虫	1	2025	2025/8/29	千歳市	千代田町7丁目	
305	ML	長谷川雅広	学生さん	成虫	1	2025	2025/8/29	恵庭市	恵み野西5丁目	
306	PL	薬田将一	本人	成虫	1	2025	2025/8/29	美唄市	東2条北2丁目	
307	X	板垣智子	本人	成虫	1	2025	2025/8/30	北広島市	美咲き野2丁目	
308	DM	林原和哉	本人	成虫	1	2025	2025/8/31	函館市	陣川12丁目	
309	fb	中田剛司	本人	成虫	1	2025	2025/8/31	栗山町	湯池	
310	ML	榎本尊	オニムシ(虫取り漫画)	成虫	1	2025	2025/8/31	新ひだか町	静内真歌	
311	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/8/31	北広島市	美沢	
312	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/8/31	北広島市	希望ヶ丘	
313	ML	森下徹	本人	成虫	2	2025	2025/8月下旬、9/2	北広島市	共栄町4丁目6-1	

表1 北海道のオオカマキリ確認情報 つづき5

No	区分	情報提供者/文献	確認者	確認態	個体数	確認年	確認日	市町村	地区名	写真
314	ML	水島未記	知人の同僚	成虫	1	2025	2025/8/31	札幌市厚別区	厚別中央2条5丁目	
315	PL	川崎映	本人	成虫	1	2025	2025/8/31	恵庭市	相生町	
316	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/9/1	北広島市	線陽町	
317	ML	長谷川雅広	知人	成虫	複数	2025	2025/9/1	札幌市南区	真駒内38	
318	PL	堀繁久	川崎映	成虫	1	2025	2025/9/1	恵庭市	住吉町	
319	ML	原内裕	本人	成虫	1	2025	2025/9/2	札幌市豊平区	月寒東3条19丁目	
320	ML	長谷川雅広	知人	成虫	2	2025	2025/9/2・5	恵庭市	盤尻漁川ダム	
321	DM	嘉賀諒	本人	成虫	11	2025	2025/9/3	千歳市	駒里	
322	fb	堀繁久	中村眞樹子	成虫	1	2025	2025/9/3	札幌市中央区	南4条西4丁目	写真20
323	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/9/3	北広島市	高台町2丁目1	
324	DM	嘉賀諒	本人	成虫	1	2025	2025/9/4	札幌市南区	白川	
325	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/9/4	北広島市	美沢	
326	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/9/4	北広島市	共栄町	
327	ML	堀繁久	本人	成虫	5	2025	2025/9/4	札幌市厚別区	小野幌記念塔広場	
328	PL	進藤夢恭	本人	成虫	1	2025	2025/9/4	むかわ町	穂別キャンプ場	
329	DM	鈴木修一	本人	成虫	1	2025	2025/9/5	北斗市	添山	
330	ML	斎藤 和範	道南の理科教員	成虫	1	2025	2025/9月上旬	七飯町	緑町	
331	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/9月上旬	北広島市	若葉町	
332	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/9月上旬	北広島市	大曲北広島市立大曲小学校	
333	ML	水島未記	安倍隆	成虫	1	2025	2025/9/5	江別市	西野幌59-2情報大学	
334	fb	堀繁久	小川直記	成虫	1	2025	2025/9/6	留萌市	見晴町	写真21
335	ML	高松慎吾	本人	成虫	1	2025	2025/9/6	長沼町	東9線南2番地	
336	ML	原内裕	本人	成虫	1	2025	2025/9/6	恵庭市	牧場281-1えこりん村	
337	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/9/6	北広島市	輪厚	
338	ML	水島未記	安倍隆さんの知人	成虫	1	2025	2025/9/6	江別市	野幌若葉町	
339	ML	中森達	高野将純	成虫	1	2025	2025/9/6	札幌市東区	中沼	
340	ML	齋藤史	本人	成虫	1	2025	2025/9/6	新篠津村	第37線北	
341	PL	神真琴	高木聡	成虫	1	2025	2025/9/6	江別市	緑が丘	
342	PL	島津亮太	本人	成虫	3	2025	2025/9/6	由仁町	古山駅	
343	ML	伊勢伸哉	本人	成虫	1	2025	2025/9/8	小樽市	祝津3丁目33小樽水族館	
344	PL	小澤徹洋	本人	成虫	1	2025	2025/9/8	函館市	赤川町	
346	fb	中田剛司	本人	成虫	1	2025	2025/9/10	長沼町	北長沼	
347	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/9/10	北広島市	松葉町	
348	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/9/10	北広島市	稲穂町西	
349	ML	中森達	本人	成虫	2	2025	2025/9/10	日高町	富川東4丁目沙流川左岸堤防	
350	ML	中森達	本人	成虫	1	2025	2025/9/10	むかわ町	宮戸川左岸河川敷	
345	PL	堀繁久	本人	成虫	5	2025	2025/9/10	札幌市厚別区	小野幌NGP記念塔広場付近	写真16
351	PL	北井則浩	本人	成虫	2♂・20♀	2025	2025/9/10	安平町	早来瑞穂	
352	ML	浅野浩史	会社の同僚	成虫	1	2025	2025/9/11	札幌市北区	北16条西2丁目1-3	
353	PL	梅津康弘	本人	成虫	1	2025	2025/9/11	札幌市豊平区	西岡3条13丁目	
354	PL	阿保秀都	内山恭子	成虫	1	2025	2025/9/11	江別市	NFP瑞穂口	
355	NP	北海道新聞 (2025/9/1)	紙面	成虫	多数	2025	2025/9/12	苫小牧市	苫小牧市内で48件の情報	
356	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/9/14	北広島市	富ヶ岡	
357	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/9/14	北広島市	共栄町	
358	ML	徳田龍弘	本人	成虫	2	2025	2025/9/14	札幌市清田区	有明	
359	DM	嘉賀諒	本人	成虫	3	2025	2025/9/15	千歳市	駒里	
360	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/9/15	北広島市	里見町	
361	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/9/15	北広島市	南町	
362	ML	丹羽真一	本人	成虫	1	2025	2025/9/15	千歳市	千歳市駒里	
363	PL	鈴木眞智子	本人	卵囊	1	2025	2025/9/15	北広島市	北広島市富ヶ岡518-3	
364	ML	原内裕	来園者	成虫	1	2025	2025/9/16	札幌市南区	滝野247TSHP	
365	ML	山崎真実	札幌市民	成虫	3	2025	2025/9/16	札幌市豊平区	豊平川左岸	
366	ML	森下徹	北広島市民	成虫	1	2025	2025/9/16	北広島市	松葉町	
367	DM	野村昭英	本人	成虫	1	2025	2025/9/17	厚沢部町	新町	
368	fb	土井克也	本人	成虫	1	2025	2025/9/17	岩内町	大浜	
369	ML	榎本尊	坂本一将	成虫	1	2025	2025/9/17	様似町	栄町様似小学校	
370	ML	明石信廣	本人	成虫	2	2025	2025/9/17	岩見沢市	幌向南3条1丁目	写真22
371	PL	是澤櫻子	本人	成虫	1	2025	2025/9/17	白老町	東町	
372	HK	佐藤武琉	本人	成虫	1	2025	2025/9/18	札幌市中央区	南18条西6丁目	
373	ML	山崎真実	札幌市民	成虫	1	2025	2025/9/18	当別町	神居尻道民の森	
375	HK	坂田潤一	本人	成虫	2	2025	2025/9/19	むかわ町	穂別中央付近	
376	ML	山崎真実	札幌市民	成虫	1	2025	2025/9/19	安平町	追分	
377	ML	山崎真実	札幌市民	成虫	1	2025	2025/9/19	北広島市	Fビレッジ	
374	PL	堀繁久	本人	成虫	5	2025	2025/9/19	札幌市厚別区	小野幌NGP記念塔広場付近	写真15
378	PL	島津亮太	本人	成虫	3	2025	2025/9/19	栗山町	桜丘	
379	HK	佐藤秀史	知人	卵囊	3	2025	2025/9/20	石狩市	額泊	
380	PL	島津亮太	本人	成虫	3	2025	2025/9/20	栗山町	桜丘	
381	ML	三橋昂貴	本人	成虫	1	2025	2025/9/21	新ひだか町	静内目名	
382	ML	久世貴世	本人	成虫	1	2025	2025/9/22	厚真町	新町1	
383	ML	久世貴世	本人	成虫	1	2025	2025/9/23	厚真町	新町1厚真中央墓地	
384	PL	大坂拓	本人	卵囊	2	2025	2025/9/24	札幌市厚別区	小野幌NFP	
385	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/9月下旬	北広島市	白樺町	
386	PL	大坂拓	本人	卵囊	1	2025	2025/9/25	札幌市厚別区	小野幌NFP	
387	PL	笹野潔	本人	成虫	1	2025	2025/9/25	札幌市南区	国営TSHP	
388	PL	山本亜生	本人	成虫	1	2025	2025/9/25	小樽市	桃内1-103	
389	ML	池田亨嘉	知人	成虫	1	2025	2025/9/26	帯広市	愛国町基線	写真23
390	ML	中森達	薄葉悠・舞	成虫	1	2025	2025/9/26	北広島市	美沢	
391	MS	門屋勝雄	本人	成虫	1	2025	2025/9/26	札幌市清田区	里塚3条6丁目	
392	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/9/29	北広島市	高台町6丁目	

表1 北海道のオオカマキリ確認情報 つづき6

No	区分	情報提供者/文献	確認者	確認態	個体数	確認年	確認日	市町村	地区名	写真
393	ML	森下徹	本人	卵囊	1	2025	2025/10/1	北広島市	高台町5	
394	HK	長谷川英裕	本人	成虫	1	2025	2025/10/2	新ひだか町	静内真歌	
395	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/10/2	北広島市	松葉町4丁目	
396	PL	川崎映	本人	成虫	1	2025	2025/10/2	千歳市	清水町	
397	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/10/3	北広島市	高台町1丁目55	
398	ML	長谷川雅広	本人	成虫	3	2025	2025/10/3	旭川市	忠別川左岸高水敷	写真18
399	PL	鈴木眞智子	本人	成虫	1	2025	2025/10/3	北広島市	栄町	
400	ML	渡辺修	札幌市民	成虫	1	2025	2025/10/4・20	江別市	高砂町	
401	PL	神真琴	神真琴	成虫		2025	2025/10/4	江別市	野幌運動公園	
402	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/10/5	北広島市	新富町	
403	ML	長谷川雅広	知人	成虫	1	2025	2025/10/5	当麻町	町内市街地	
404	PL	山田央	本人	卵囊	1	2025	2025/10/5	七飯町	本町	
405	PL	佐藤静子	本人	成虫	1	2025	2025/10/7	札幌市厚別区	小野幌北海道開拓の村	
406	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/10/8	北広島市	輪厚	
407	ML	丹羽真一	札幌市民	成虫	1	2025	2025/10/8	札幌市豊平区	福住1条5丁目	
408	NP	北海道新聞 (2025/10/10)	紙面	成虫	多数	2025	2025/10/10	占冠村	双珠別で卵囊、村内で10例以上	
409	DM	青塚昭仁	本人	成虫・卵囊	1	2025	2025/10/13	苫小牧市	弁天町	
410	DM	松浦冬真	本人	成虫	1	2025	2025/10/13	松前町	豊岡	
411	MS	元島秋雄	本人	成虫	1	2025	2025/10/14	札幌市東区	中沼町	
412	ML	森下徹	本人	成虫	1	2025	2025/10/15	北広島市	山手町	
413	ML	丹羽真一	本人	卵囊	4	2025	2025/10/15・16	奥尻町	長浜	
414	ML	森下徹	本人	卵囊	3	2025	2025/10/17	北広島市	広葉町3丁目1番地	
415	MS	中川規圭	本人	成虫	1	2025	2025/10/18	恵庭市	住吉町	
416	NP	北海道新聞 (2025/10/18)	紙面	成虫	多数	2025	2025/10/18	札幌市・北広島市	道央域100箇所以上	
417	PL	川崎映	本人	成虫	1	2025	2025/10/18	由仁町	伏見エガーデン	
418	DM	林原和哉	本人	卵囊	1	2025	2025/10/19	松前町	白神	
419	ML	徳田龍弘	本人	卵囊	7	2025	2025/10/23	苫小牧市	三沢	
420	ML	菊池那樹	本人	成虫	1	2025	2025年	千歳市	美々公立千歳科学技術大学	
421	ML	中島宏章	知人	成虫	1	2025	2025年	島牧村	千走地区	
422	ML	吉沼利晃	知人	成虫	3	2025	2025年	苫小牧市	沼/端周辺	
423	ML	斎藤 和範	知人	成虫	1	2025	2025年	長沼町	東2線北15番地	
424	ML	三橋昂貴	知人	成虫	1	2025	2025年	新冠町	西泊津16-3	
425	ML	三橋昂貴	知人	成虫	1	2025	2025年	新ひだか町	静内駒場14-2	
426	ML	三橋昂貴	知人	成虫	1	2025	2025年	新ひだか町	静内中野町	
427	ML	斎藤佳太	本人	成虫	1	2025	2025年	浦河町	堺町	
428	ML	斎藤佳太	本人	成虫	1	2025	2025年	浦河町	栄丘東通56	

表2 野幌森林公園周辺のオオカマキリ卵囊調査結果

No	地上高(cm)	茎径(mm)	卵囊長(mm)	産卵植物	No	地上高(cm)	茎径(mm)	卵囊長(mm)	産卵植物
1	13	3.2	37	ススキ	68	28	4.5	43	ススキ
2	12	4.3	38	ススキ	69	15	-	42	ススキ
3	16	6.3	32	ススキ	70	14	5.5	31	ススキ
4	20	4.1	32	ススキ	71	16	4.7	39	オオアワダチソウ
5	23	5.1	39	ススキ	72	24	3.6	34	ススキ
6	20	4.4	29	ススキ	73	36	3.8	40	ススキ
7	30	3.2	42	ススキ	74	10	3.7	32	ススキ
8	21	2.7	51	ススキ	75	16	3.1	31	ユウゼンギク
9	21	5.0	37	ススキ	76	20	6.0	33	ススキ
10	16	4.4	37	ススキ	77	19	5.2	26	クマイザサ
11	31	3.7	32	ススキ	78	9	5.5	27	ススキ
12	14	4.7	33	ススキ	79	11.5	2.5	39	オオアワダチソウ
13	18	4.6	38	ススキ	80	13	2.6	33	ムラサキツメクサ
14	16	5.1	37	ススキ	81	8	2.9	39	オオアワダチソウ
15	20	5.0	35	ススキ	82	16	2.8	38	オオアワダチソウ
16	21	4.4	38	ススキ	83	21	3.0	32	ススキ
17	17	3.5	36	ススキ	84	26	4.9	38	ススキ
18	14.5	4.4	32	ススキ	85	18	4.7	35	ススキ
19	15.5	3.6	36	ススキ	86	19	4.2	45	ススキ
20	55	2.8	34	ススキ	87	15	4.5	38	ススキ
21	33	2.8	-	ススキ	88	13	5.0	32	ススキ
22	15	4.6	30	ススキ	89	17	5.4	32	ススキ
23	16	2.6	30	カモガヤ	90	19	5.2	33	ススキ
24	23	6.0	29	ススキ	91	24	4.5	23	クマイザサ
25	29	5.1	45	ススキ	92	31	4.2	37	ススキ
26	22	4.5	29	ススキ	93	15	5.0	36	ススキ
27	23	3.4	37	ススキ	94	22	4.3	32	ススキ
28	35	5.0	36	ススキ	95	31	3.2	31	ススキ
29	45	5.8	39	ススキ	96	23	5.0	31	ススキ
30	65	5.9	36	ススキ	97	26	4.0	35	ススキ
31	86	6.0	44	ススキ	98	39	3.7	39	ススキ
32	62	3.3	29	ススキ	99	19	5.3	30	ススキ
33	29	4.9	24	ススキ	100	20	5.2	32	ススキ
34	18	5.0	33	ススキ	101	14	3.0	33	ススキ
35	12	3.2	29	ススキ	102	26	5.0	36	ススキ
36	23	2.7	31	ススキ	103	54	3.7	19	ススキ
37	18.5	3.7	30	ススキ	104	32	3.3	39	ススキ
38	16	3.6	29	ススキ	105	16	3.2	28	ススキ
39	16	2.6	22	ススキ	106	20	2.4	31	ススキ
40	16	4.1	32	ススキ	107	18	4.6	38	ススキ
41	20	4.4	35	ススキ	108	24	2.8	39	ススキ
42	16	3.9	32	ススキ	109	33	2.2	31	ススキ
43	18	2.4	32	ススキ	110	23.5	3.2	37	ススキ
44	15	3.8	33	ススキ	111	18.5	3.6	19	ススキ
45	30	1.7	30	ススキ	112	12	3.7	22	ススキ
46	23	3.6	38	ススキ	113	46	3.6	35	ススキ
47	19	6.7	34	ススキ	114	16.5	3.7	33	ススキ
48	24	5.5	38	ススキ	115	21	4.7	31	ススキ
49	21	3.5	46	ススキ	116	13.5	5.0	26	ススキ
50	30	4.4	33	ススキ	117	14	4.5	28	ススキ
51	26	5.6	41	ススキ	118	17	3.4	28	ススキ
52	35	2.9	38	カモガヤ	119	35.5	5.2	33	ススキ
53	19	6.3	36	ススキ	120	13	3.4	39	ススキ
54	59	3.2	36	ススキ	121	17	5.4	31	ススキ
55	11	4.7	37	ススキ	122	25.5	3.6	39	ススキ
56	13	5.4	34	ススキ	123	16	-	31	ススキ
57	18	4.2	40	ススキ	124	24	3.4	27	ススキ
58	18	5.0	42	ススキ	125	16	3.1	28	ススキ
59	24	4.3	36	ススキ	126	21	3.5	25	ススキ
60	49	4.5	34	ススキ	127	32	2.8	32	ススキ
61	26	4.3	32	ススキ	128	20.5	3.5	35	ススキ
62	22.5	3.9	44	ススキ	129	37	3.6	38	ススキ
63	17.5	4.2	29	ススキ	130	21	3.7	37	ススキ
64	19	3.8	34	ススキ	131	26	3.7	32	ススキ
65	23	3.6	36	ススキ	132	23.5	3.7	28	ススキ
66	23.5	5.5	32	ススキ	133	16	3.4	34	ススキ
67	23	5.2	38	ススキ	134	19	3.4	25	ススキ



写真1 オオカマキリの生息環境、野幌森林公園記念塔広場付近



写真2 卵囊の計測とマーキング作業



写真3 ススキに産卵された地上高20cmの卵囊、No.100



写真4 ススキに産卵された地上高19cmの卵囊、No.125



写真5 クマイザサに産卵された地上高19cmの卵囊、No.77



写真6 オオアワダチソウに産卵された地上高8cmの卵囊、No.81



写真7 ススキに産卵された地上高54cmの卵囊、No.103



写真8 ウダイカンバに産卵された地上高150cmの卵囊、奥尻島 丹羽真一氏撮影



写真9 中齡幼虫、木古内町大平、2007年8月6日、堀繁久撮影



写真10 亜終齡幼虫、函館市東山、2007年8月6日、堀繁久撮影



写真11 メス成虫、松前町大沢、2006年9月24日、堀繁久撮影



写真12 メス成虫、函館市恵山、2013年9月9日、堀繁久撮影

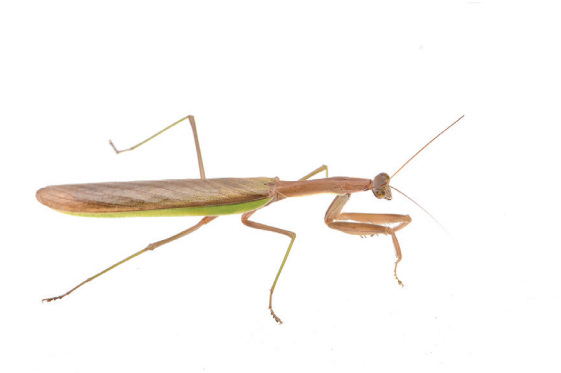


写真13 オス成虫、札幌市厚別区北海道開拓の村、2024年9月8日、堀繁久撮影



写真14 オス成虫、札幌市厚別区野幌森林公園、2025年8月16日、堀繁久撮影



写真15 交尾ペア、札幌市厚別区野幌森林公園、2025年9月19日、堀繁久撮影



写真16 交尾ペアとオス、札幌市厚別区野幌森林公園、2025年9月10日、堀繁久撮影



写真17 オス成虫、千歳空港、2025年8月23日、高井孝太郎撮影



写真18 メス成虫、旭川市忠別川左岸、2025年10月3日、長谷川雅広撮影



写真19 オス成虫、斜里町ウトロ、2024年10月18日、桜井あけみ撮影



写真20 メス成虫、札幌市ススキノ、2025年9月3日、中村眞樹子撮影



写真21 オス成虫、留萌市見晴町、2025年9月6日、小川直樹撮影

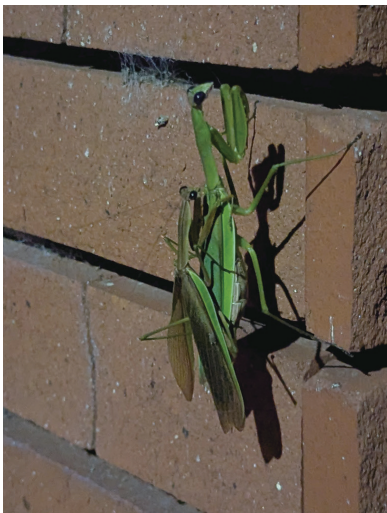


写真22 交尾ペア、岩見沢市幌向、2025年9月17日、明石信廣撮影



写真23 成虫死体、帯広市愛国町基線、2025年10月6日、池田亨嘉提供

Recent Expansion and Establishment of the Chinese Mantis (*Tenodera sinensis*) in Central Hokkaido, Japan

HORI Shigehisa and NAKAMORI Tooru

Historically, the distribution of the Chinese mantis (*Tenodera sinensis*) in Hokkaido has been restricted to the southern Oshima Peninsula and Okushiri Island. However, sightings in the central Hokkaido region (Do-o area) have increased significantly in recent years. This study investigated the factors driving this expansion through using data collected through a coordinated online citizen science project across Hokkaido, combined with field surveys conducted in and around Nopporo Forest Park. While past occurrences in central Hokkaido were sporadic and attributed to the accidental

introduction of oothecae via nursery stocks, current data suggest a shift toward permanent establishment. Our findings indicate that two primary factors contribute to this population increase: the emergence of populations possessing adaptive traits for cold, snowy environments, and the rise in average temperatures due to recent climate change, which has created a more suitable thermal niche for the species. Continuous monitoring of the invasion and establishment of *T. sinensis* is essential for understanding the broader impact of global warming on Hokkaido's biodiversity and faunal shifts.